

「教官と学生とのコミュニケーション
に関するアンケート調査」集計報告

昭和47年11月

国立大学協会
第三常置委員会

第 1 章 調査の概要

ま え が き

この報告は、さきに本委員会が「教官と学生とのコミュニケーションに関するアンケート調査実施要領」にもとづいて行なった調査の結果を集計したものである。

この調査は、その内容がかなり多面にわたっており、また、各大学それぞれの事情によつて回答のとりまとめが容易でなかったことが十分に察せられるが、各大学のご協力によつて100パーセントの回収率をあげることができたことを心から感謝する。

本調査は、実施要領にも記されているように、大学における教官と学生とのコミュニケーションの重要性にかんがみ、その実態を調査し、その結果を各大学に報告して、この問題に対する各大学の今後の具体的施策に資する目的をもって企画・実施されたものである。この調査結果が有効に活用されて、各大学における両者のコミュニケーションの充実と発展、ひいては大学教育の目的達成に寄与することになるならば、まことに幸いである。

設問別の集計結果は別紙のとおりであるが、集計にあたって次の点に留意した。

- (1) 大学によっては、学部毎の回答を寄せられた大学があつた。この分については、これを通覧して数量化を要する設問に対する当該大学の回答を一本にまとめる操作を行なった。ただし、数量化を要しない設問には学部毎の回答も資料として扱つた。パーセンテージの算出は設問毎に有効回答数を母数として算出した。複数選択の設問は、回答全数を母数として、パーセンテージを算出し扇形グラフで示した。棒グラフは実数で表示し、76大学を母数とする比率や、有効回答を母数とするパーセンテージの双方をよみとるように配慮した。なお、各設問についてのまとめの中で、複数選択の各選択肢に対する回答数を、その設問に対する回答校数を母数として比率算出を行なった場合もある。

「教官と学生とのコミュニケーション に関するアンケート調査」集計報告

目 次

ま え が き

I 全般的问题	1
II 組織・制度	8
III 施 設	32
IV 行 事	63

I 全般的問題

1. 貴学において教官と学生とのコミュニケーションが、うまくいつている、いつていない等という実情のいかんにかかわらず、現状改善のためになにか新しく検討されていますか。検討されているとすれば、その検討をすすめている組織の名称と構成メンバーはどのようなものですか。

	回 答(ある)	無 記 入
全体	46校	30校

	あ る	無 記 入
A 群	24校	21校

	あ る	無記入
B 群	22校	9校

A群43組織(1校平均) 1.8組織	B群56組織(1校平均) 2.6組織
-----------------------	-----------------------

組織の名称は、大学改革に関する委員会や厚生補導委員会(学生委員会)に類するものが多く、無記入の大学(30校)においても、回答を寄せられた大学とほぼ同じ程度の組織があるものと考えてよい。なお、回答数の多い組織名を略記すると、厚生補導委員会、学生委員会、大学改革委員会、大学問題検討委員会、カリキュラム委員会、各属代表者会議、学生会館運営委員会、学寮運営委員会等である。

つぎに構成メンバーは教官が主体になっており、(一部は事務職員も参加)学生参加の組織はA群43組織中15組織、B群56組織中8組織となっている。

- ※ 2. 貴学において教官と学生とのコミュニケーションの改善が検討されている場合、その問題点は、どのようなものですか。簡単にご説明下さい。

	回 答	無 記 入
全体	39校	37校

	回 答	無 記 入
A 群	22校	23校

	回 答	無 記 入
B 群	17校	14校

1) 組織的・制度的なもの

カリキュラム編成、グループ制、ゼミナール制、クラス担任制、指導教官制、学生相談室等に関する問題点についての回答が多く、その他管理運営に対する学生参加の問題等についても一部の大学がとりあげている。

2) 厚生・補導施設に関するもの

学生会館、サークル部室、合宿研修施設、学寮、生協施設等の建設および設備の拡充に関する回答が非常に多く、その他これらの施設の管理運営の問題もとりあげられている。

3) 年中行事に関するもの

回答例の大部分が学園祭、オリエンテーション、研修旅行等の項目をあげている。

4) その他

補導の範囲と限界の検討、サークル活動の意義、課外活動経費の助成、講義、実習等の履修の諸問題がとりあげられている。

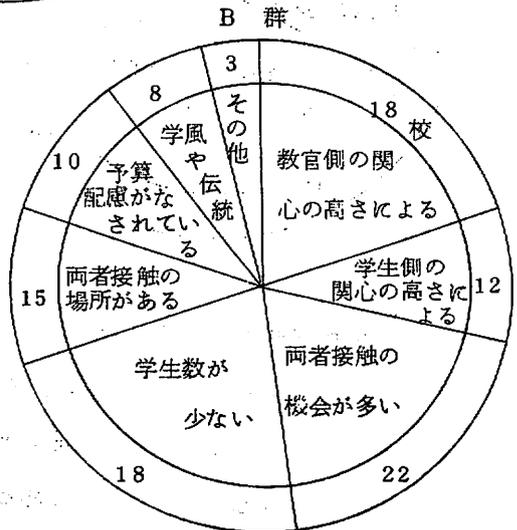
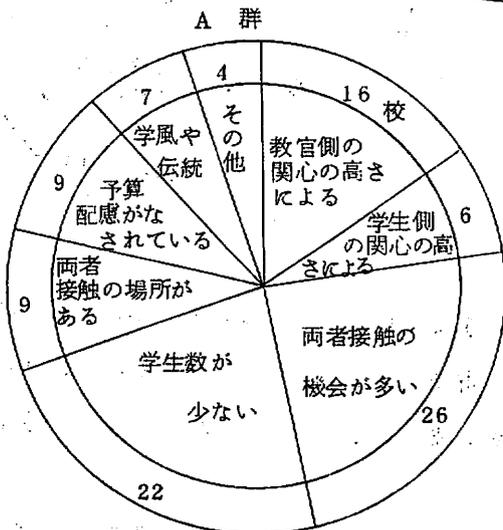
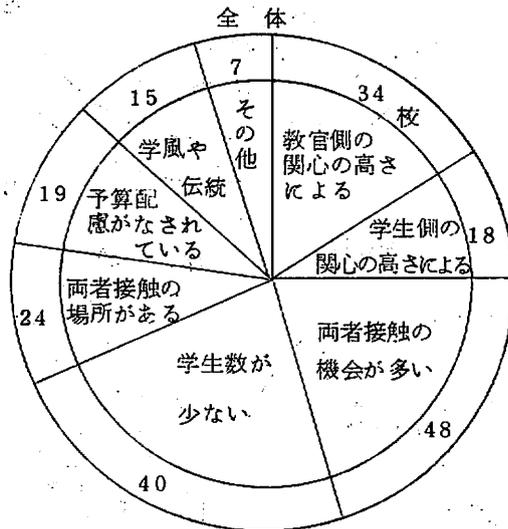
※ 3 貴学において教官と学生とのコミュニケーションが〔うまくいっている場合、あるいはうまくいっていない場合〕それは次のような理由または条件によるとお考えですか。特に関係のあるものを3～4個あげて下さい。

〔うまくいっている場合〕 〔うまくいっていない場合〕

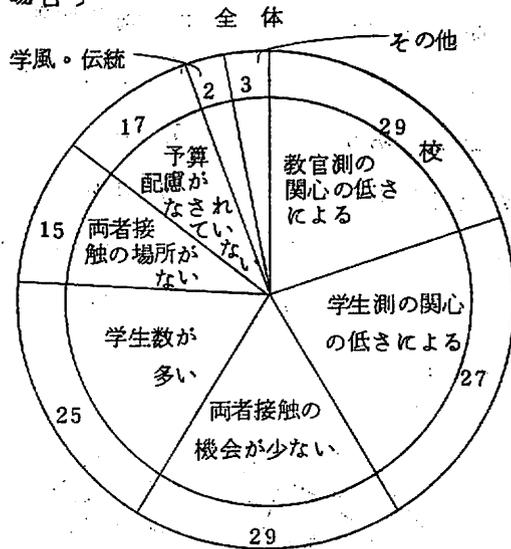
- 1) 教官側の関心の高さによる 1) 教官側の関心の低さによる

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 2) 学生側の関心の高さによる | 2) 学生側の関心の低さによる |
| 3) 両者接触の機会が多い | 3) 両者接触の機会が少ない |
| 4) 学生数が少ない | 4) 学生数が多い |
| 5) 両者接触の場所がある | 5) 両者接触の場所がない |
| 6) 予算配慮がなされている | 6) 予算配慮がなされていない |
| 7) 学風や伝統() | 7) 学風や伝統() |
| 8) その他() | 8) その他() |

[うまくいっている場合]

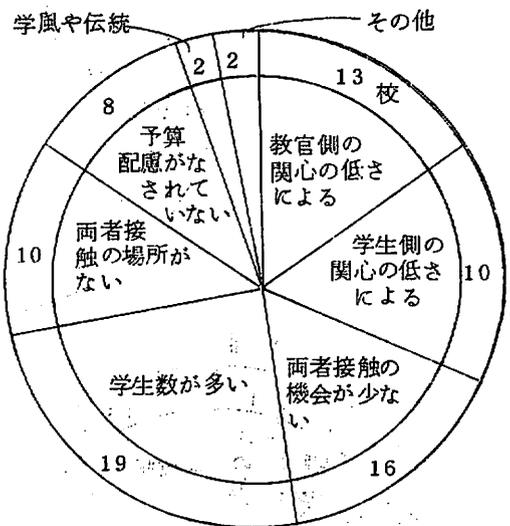
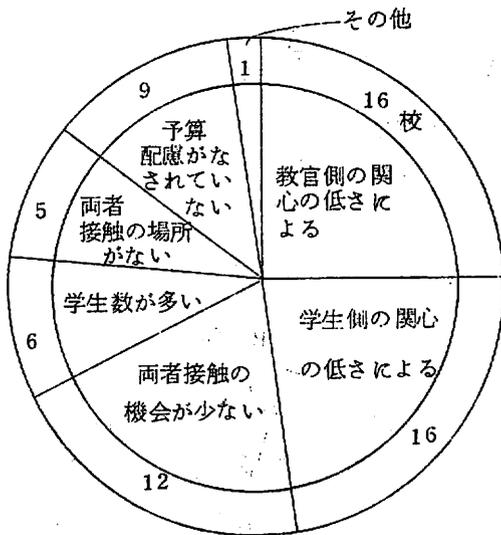


〔うまくいっていない場合〕



A 群

B 群



上のグラフからわかるように、うまくいっている場合の理由としては「両者の接触の機会が多い」が一番多いが、「学生数が少ない」、「教官側の関心が高い」という理由とあいまって、コミュニケーションがうまくゆくと解釈してよさそうである。

うまくいっていない場合は、この逆の理由によるが、A群では、両者の

3 関心の低さを理由にしているところが多い。

4 なんらかの問題を検討または解決するために、教官と学生が参加協力した委員会が、これまでに設けられたことはありますか。

〔全学的なもの〕

1) ある

2) ない

	あ	る	な	い
全体	39校		37校	

	あ	る	な	い
A群	26校		19校	

	あ	る	な	い
B群	13校		18校	

「ある」に記入された委員会としては、学生会館および学寮の運営、学園祭や課外活動関係さらに福利厚生に関する委員会等が最も多く、その他学舎の整備統合等、将来計画に関するものや教官と学生の連絡協議会に類するものがある。

〔各学部別のもの〕

1) ある

2) ない

	あ	る	な	い
全体	37校		39校	

	あ	る	な	い
A群	16校		29校	

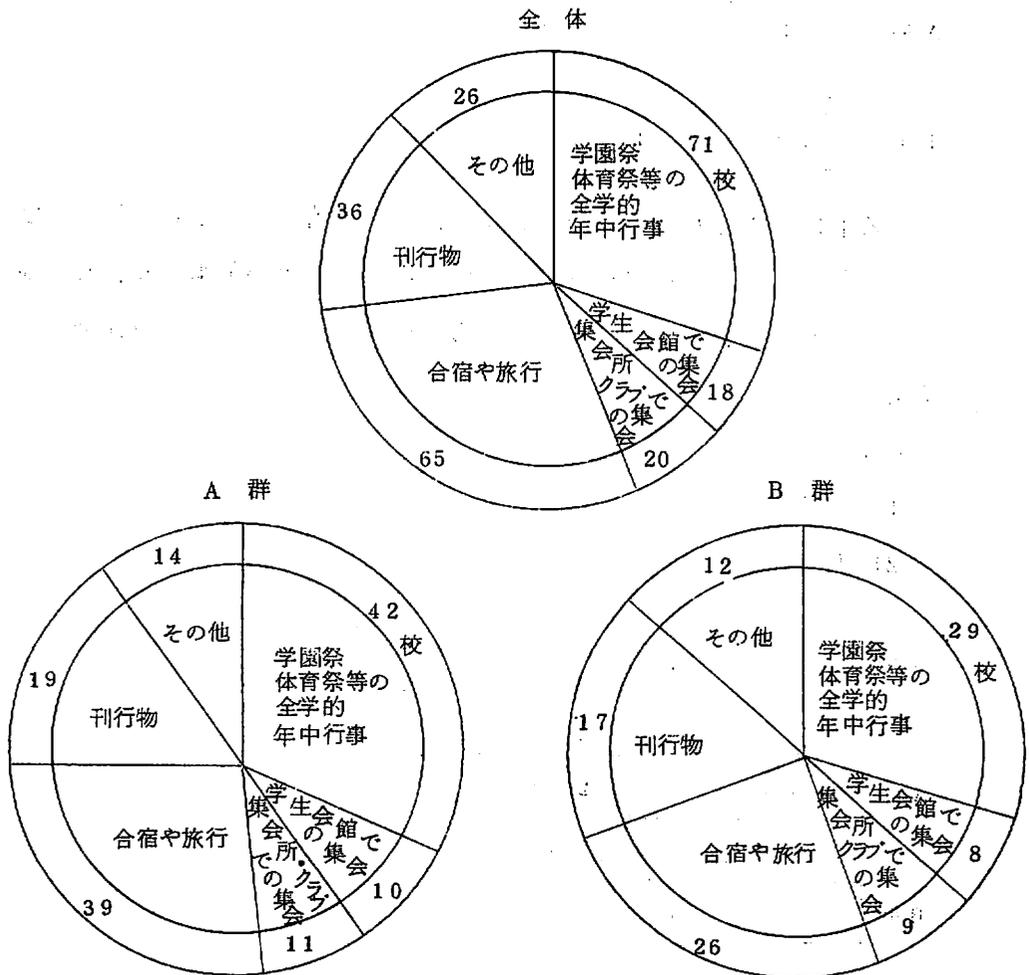
	あ	る	な	い
B群	21校		10校	

全学的なものとなり、学部の改革に関するものや学部の運営に関する連絡協議会的な委員会が多い。

※5. 教養課程、専門課程を通じて、教官と学生が任意に接触交流できるインフォーマルな場面としては、どのようなものがありますか。

- 1) 学園祭や体育祭等の全学的年中行事
- 2) 学生会館（大学会館）での集会
- 3) 集会所やクラブ建物での集会
- 4) 合宿や旅行
- 5) 刊行物（大学新聞を除く）
- 6) その他

A群 135 (1校平均3)	B群 101 (1校平均3.3)
----------------	------------------



〔参加度〕

	相当参加		まあまあと いうところ		ほとんど参加せず		無記入		回答校
	教 官	学 生	教 官	学 生	教 官	学 生	教 官	学 生	
1) 学園祭等	A 2校	9校	32校	31校	6校	校	2校	2校	42
B	1	7	14	20	12	2	2		29
全	3	16	47	51	18	2	4	2	71
2) 学生会館等	A 1	7	8	2	1			1	10
B			2		3		3		8
全	1	7	10	2	4		3	1	18
3) 集会所等	A 2	4	6	4	1		2	3	11
B		5	7	4	2				9
全	2	9	13	8	3		2	3	20
4) 合宿・旅行	A 16	18	21	19	1	1	1	1	39
B	9	13	16	13	1				26
全	25	31	37	32	2	1	1	1	65
5) 刊行物	A 4	5	13	12	1	1	1	1	19
B	6	3	8	10		1	3	3	17
全	10	8	21	22	1	2	4	4	36
6) その他	A 6	6	3	3	1	1	4	4	14
B	5	4	4	5	1		2	3	12
全	11	10	7	8	2	1	6	7	26

学園祭等の全学的行事、合宿や旅行等が最も多く、また「その他」の内容としては、懇談会、レクリエーション、一般教育セミナー、出身地別県人会、コンパ、スポーツ大会、オリエンテーション、学外セミナー、教養セミナー、見学会、サークル活動等が回答されている。

「参加度」としては、教官、学生ともに合宿・旅行が一番多く回答されており、ついで学園祭、刊行物、集会所、学生会館の順になっている。

Ⅱ 組織・制度

6. 教養課程は縦割りですか、横割りですか

- 1) 縦割りである。
- 2) 横割りである。
- 3) 縦割りを主とし、一部横割りの要素が加味されている。
- 4) 横割りを主とし、一部縦割りの要素が加味されている。
- 5) その他

	縦割り	横割り	縦割り主 一部横割り	横割り主 一部縦割り	その他
全体	13校	11	17	29	6

	縦割り	横割り	縦割り主 一部横割り	横割り主 一部縦割り	その他
A群	11校	5	14	10	5

	縦割り	横割り	縦割り主 一部横割り	横割り主 一部縦割り	その他
B群	2校	6	3	19	1

「その他」の内容：クサビ型、全学出動方式

B群では「横割りを主とし一部縦割りの要素が加味されている」大学が61%と圧倒的に多いのに対しA群では「縦割りを主とし一部横割りの要素が加味されている」のが31%、「縦割り」が24.4%、「横割りを主として一部縦割りの要素が加味されている」のが22.2%となっている。

※ 7. 教養課程の学生と専門課程の教官との交流は、どのように行なわれていますか。

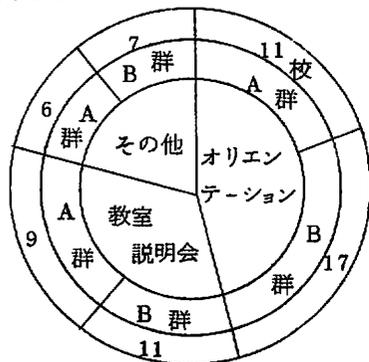
1) 授業を通じて行なわれる

	授業を通じて行なわれる	無記入
全体	6.0校	16校
A 群	3.2校	1.3校
B 群	2.8校	3校

2) 専門課程側で準備される(定期的・臨時的)会合(オリエンテーション・教室説明会・その他)がある。

	専門課程で準備される会合がある	無記入
全体	4.9校	2.7校
	定期的 1.7校 臨時 1.9校 無記入 1.3校	
A 群	2.2校	2.3校
	定期的 7校 臨時 7校 無記入 8校	
B 群	2.7校	4校
	定期的 1.0校 臨時 1.2校 無記入 0.5校	

[会合の内容]



「その他」の内容:

合宿セミナー、学部懇談会、研究室紹介、講演会、水泳端艇巡航、学部紹介、教官別各種会合、グループ別懇談会、親善旅行

3) 教養課程側で準備される(定期的・臨時の)会合()
がある。

		教養課程で準備される会合がある		無 記 入	
全体	15校			61校	
	4	2	無記入9		
		定期的	臨時		
		ある	無 記 入		
A 群	6校			39校	
	定3	3	無記入		
		ある	無 記 入		
B 群	9校			22校	
	2	2	無記入5		
		定期的	臨時		

「会合」の内容：オリエンテーション、課外講座、教室説明会、学外ゼミ、ゼミ説明会、教官とクラスとの会合、第4時限、合宿研修セミナー

4) 公的な機会は配慮されていない

		公的な機会は配慮されていない		無 記 入	
全体	10校			66校	
	配慮なし				
		無 記 入			
A 群	5校			40校	
	配慮なし				
		無 記 入			
B 群	5校			26校	
	配慮なし				

5) 参加自由の各種行事において、行なわれている

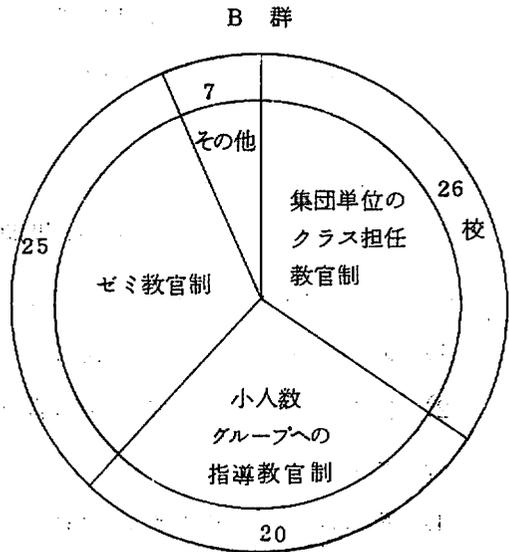
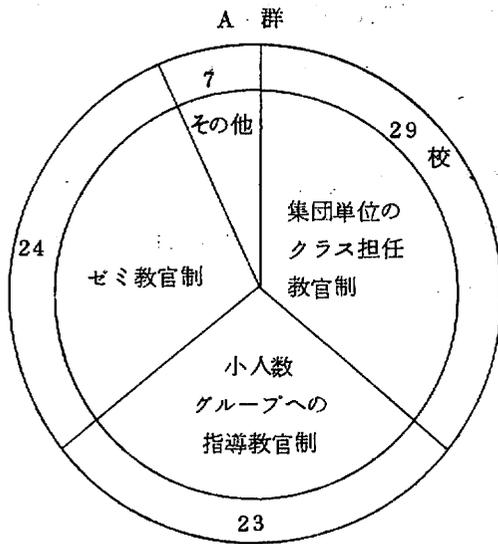
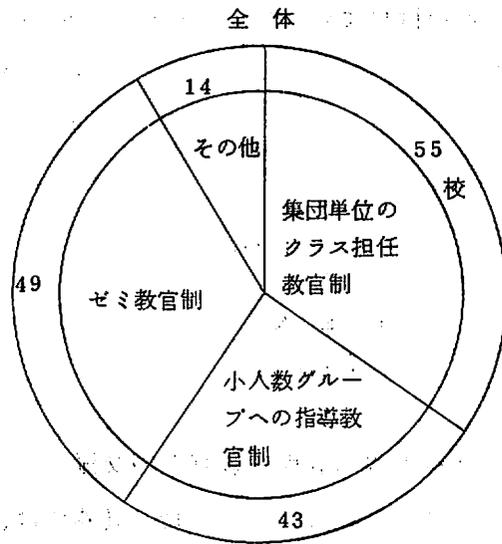
	自由参加の各種行事		無	記	入
全体	26校				50校
	自由参加の各種行事		無	記	入
A群	13校				32校
	自由参加の各種行事		無	記	入
B群	13校				18校

教養課程の学生と専門課程の教官との交流については、ほとんどの大学が授業を通じて行なわれている。授業以外では、オリエンテーション・教室説明会などを定期的または臨時に実施しており、教養課程側で準備されている大学もあるが大抵の大学では専門課程側で準備されている。

※8. 教官と学生とのコミュニケーションについては、どのような組織的配慮がなされていますか（学生の集団指導をしている生活指導委員・補導委員や課外活動サークル顧問教官等を除く）。

- 1) 集団単位のクラス担任教官制
- 2) 少人数グループへの指導教官制
- 3) ゼミ教官制
- 4) その他（組織のしかたを具体的に）

A群回答44校	A群無記入1校	B群回答31校
A群83配慮（1校平均1.9）	B群78配慮（1校平均2.5）	



「その他」の内容：

- 教室所属と助言教官制
- 専攻系別指導教官制
- 学生委員会制度
- 専攻またはゼミ単位で組織
- 特別実習等の授業を通じて
- 専攻教科別補導教官制

A群、B群とも「集団単位のクラス担任教官制」が多く、ついで「ゼミ教官制」、少人数グループへの指導教官制」の順になっている。

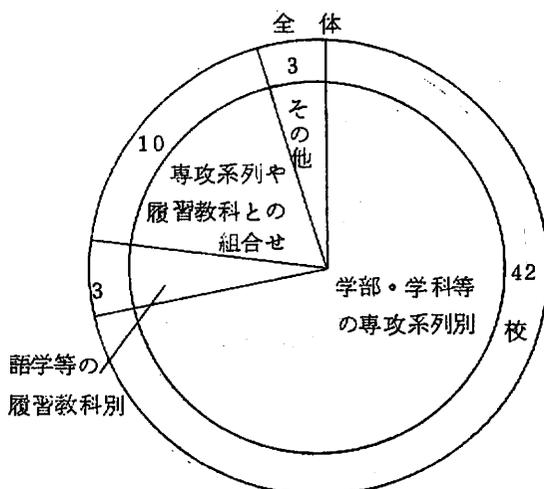
9. (A) クラス担任教官制がある場合、そのクラス分けのしかたは、どのようにしますか。

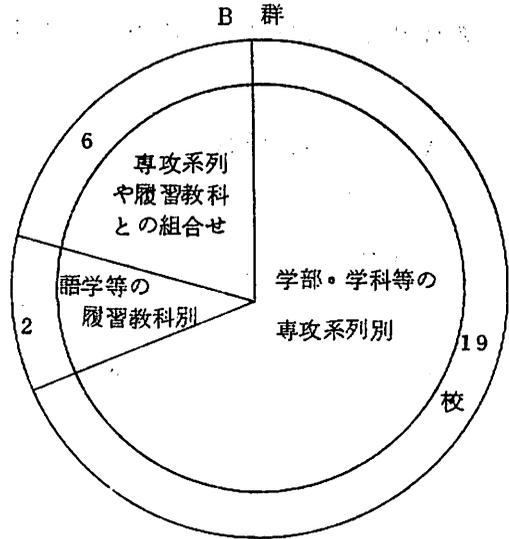
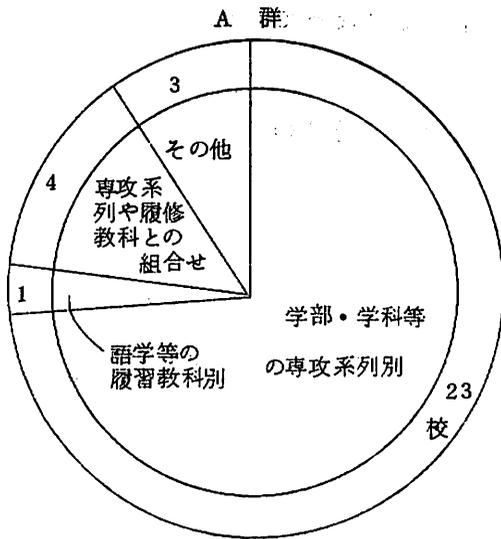
(A)(B)共

	回 答(ある)	無 記 入
全体	57校	19校
A群	30校	15校
B群	27校	4校

(注) (A)、(B)とも大学により学部毎に異なる場合があり、複数回答の大学もあった。

- 1) 学部や学科等の専攻系列別
- 2) 語学等の履習教科別
- 3) 専攻系列や履習教科との組合せ
- 4) その他()

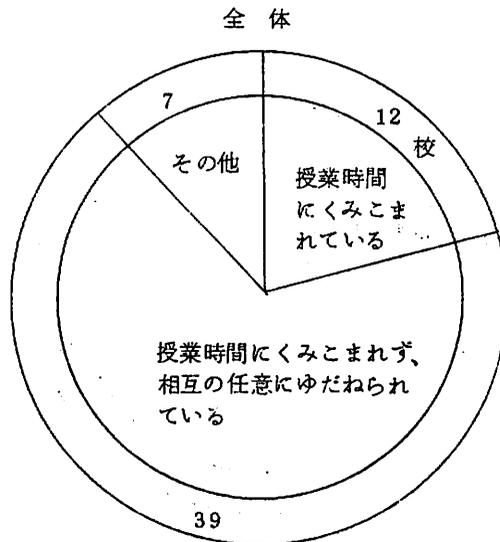


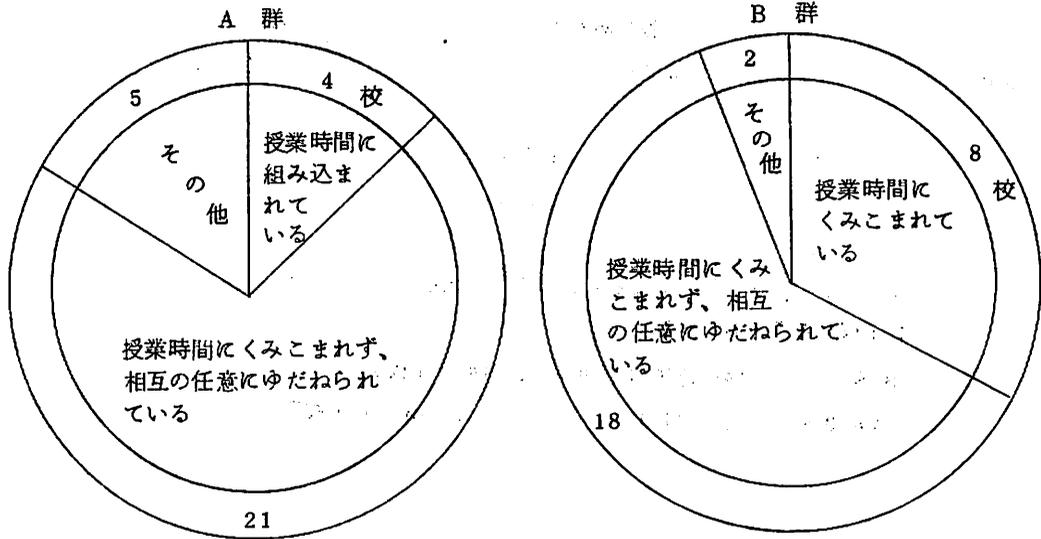


「その他」の内容：学年別、名簿順のクラス別、特殊講義の履習者別、機械的に人数を分ける。

(B) クラスト担任教官との接触の機会は、どのように配慮されていますか。

- 1) 授業時間に週間、約()時間くみこまれている。
- 2) 授業時間内にくみこまらず、相互の任意に委ねられている。
- 3) その他()





授業時間にくみこまれているクラスと担任教官との週間の接触時間

2～4時間	8校	4-6時間	24時間	無記入	2校
		1校	1校		

「その他」の内容：クラス懇談会、特殊講義を履習前に1～2回、合宿旅行、行事、補導時間、クラスコンパ、ピクニック

クラス担任教官制では「専攻系列別に教官を配置する」解答、接触の機会は「授業時間内にくみこまれず相互の任意に委ねられている」大学が圧倒的に多い。

10. (A) 指導教官制がある場合、その少人数学生のグループ分けのしかたは、どのようにされていますか。
- 1) 教官を選ぶ学生の希望どおりにわかる
 - 2) 学生の希望を尊重しつつ、グループの人数を調整する
 - 3) 専攻系列等を考慮してふりわけ
 - 4) なんにも考慮せずにふりわけ
 - 5) その他()

「その他」の内容には、卒論生のみ主として論文指導の形式、上級生を中心とした卒論研究テーマを中心に分ける案があった。

(B) 少人数学生グループと指導教官との接触の機会は、どのように配慮されていますか。

- 1) 特定の時間が()に設けられている。
- 2) 相互の任意に委ねられている
- 3) その他

	回 答	無 記 入
全体	55校	21校

	回 答	無 記 入
A 群	27校	18校

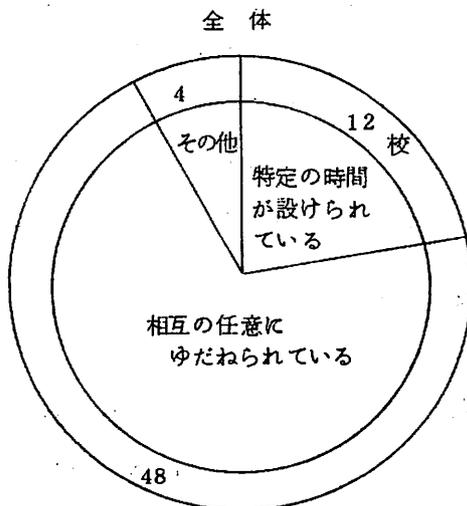
	回 答	無 記 入
B 群	28校	3校

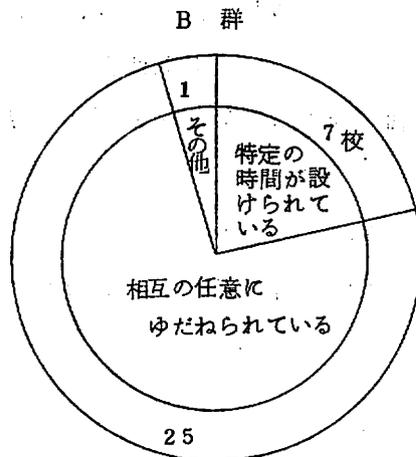
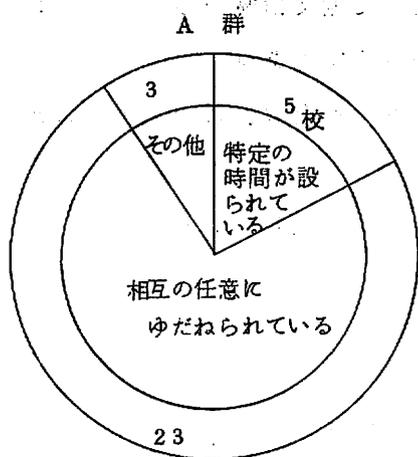
回答数 64

A 群 31 (1校平均 1.1)	B 群 33 (1校平均 1.2)
---------------------	---------------------

(複数回答校 : A 群 2校、B 群 4校)

[注] 大学により複数回答があった。





「特定の時間」の内容：週1回、授業時間制、卒論課題研究、1週間約40分、実験・実習・演習、週2時間、年2回懇談会、前期毎日午後・後期毎日終日、フリー・コーナー、課題研究として時間割

「その他」の内容：ゼミで常時、年2回指導教官を通じて学習簿が渡される。

指導教官制がある場合、A群の中では「専攻系列等を考慮する」が50%、「学生の希望を尊重しつつ、グループの人数を調整する」が23%となっている。B群の中では「専攻系列等を考慮する」が36%、学生の希望を尊重しつつ、グループの人数を調整する」が28%、「教官をえらぶ学生の希望どおり」が20%の解答となっていて、A群とB群とは少し違った結果がでている。

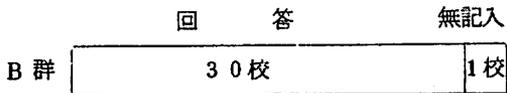
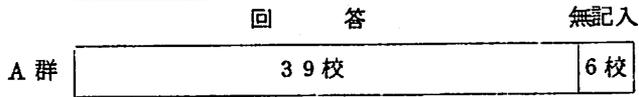
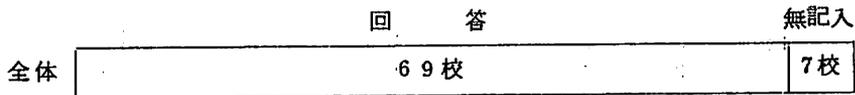
接触の機会も「相互の任意に委ねられている」とする解答がA群、B群とも圧倒的に多く、特定の時間を設けているところも数校ある。

11. クラス担任教官または指導教官等の活動に対して、どのような配慮がなされていますか。

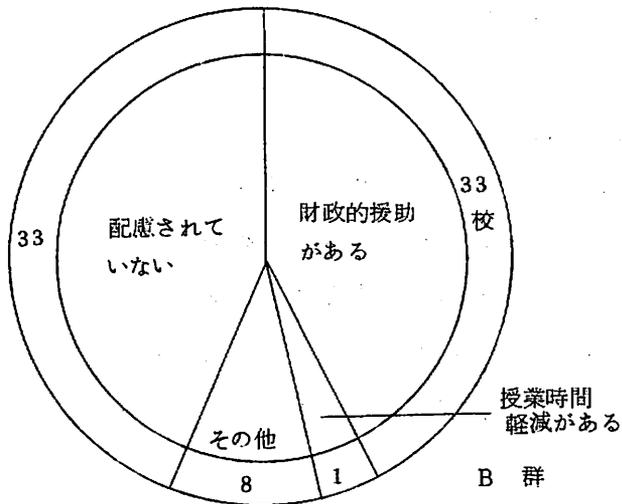
- 1) 年間、学生1人あたり約()円の財政的援助がある
- 2) 週間、約()時間の授業時間軽減がある

3) その他 ()

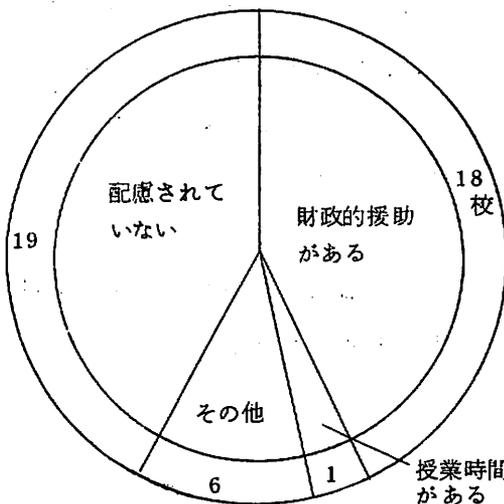
4) 配慮されていない



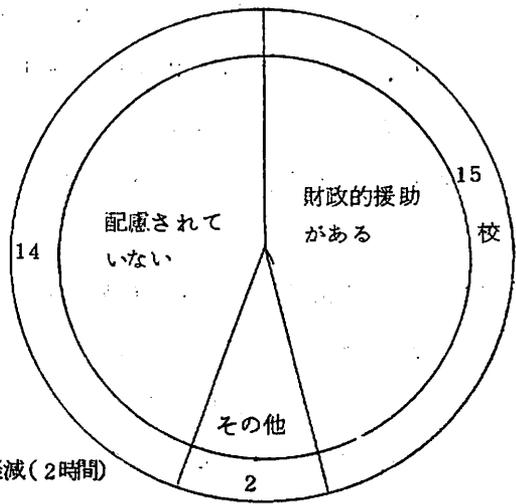
全 体



A 群



B 群



1) の財政的援助の内容 (回答 3 3 校について)

援助額 群	～200 円	～400	～600	～800	～1,000	2,500	不 明	計
A	12	2	2		1		1	18
B	7	3	1	2	1	1		15
全 体	19	5	3	2	2	1	1	33

「その他」の内容：

- クラス懇談会の日程は教授会で決定
- 授業時間割に週二時間方組み込まれているホームルーム的なもの(ゼミナールと称している)
- 合宿費用と消耗品
- 見学旅行の旅費学科に一任
- コンサルテーションについては文部省厚生補導特別企画により予算配分を受けている(不十分であるが)
- 会合のための茶菓子代程度を用意
- 特別指導費(新入生および在来生合宿オリエンテーション)
- クラス担任教官について1人当たり2,000円

配慮されていないとする大学と配慮がなされている大学とは丁度半々であり、学生一人当たり200円～400円の財政的援助をしている大学が多い。これらは文部省よりの特別指導費の範囲内で援助しているようである。これより多く援助している大学は後援会よりの支出と思われる。

- ※ 12. クラス担任制または指導教官制に伴う活動が活発であったり、あるいは低調であったりする場合、どのような原因が考えられますか。

〔活発な場合〕

- 1) 教官側の関心の高さによる

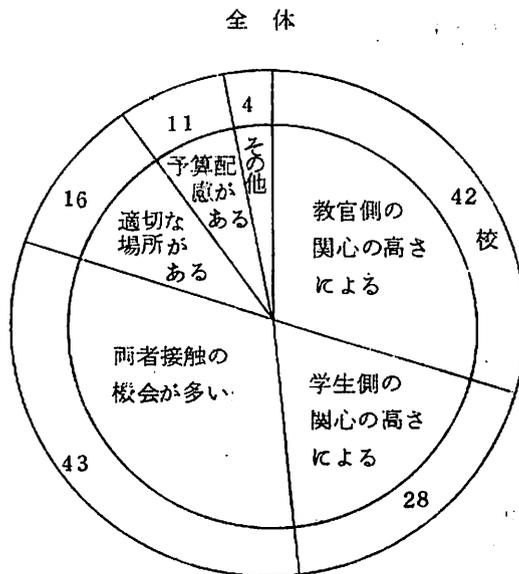
- 2) 学生側の関心の高さによる
- 3) 両者接触の機会が多い
- 4) 適切な場所がある
- 5) 予算配慮がなされている
- 6) その他()

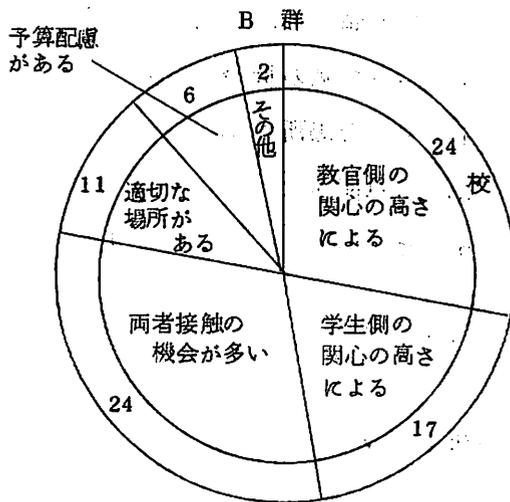
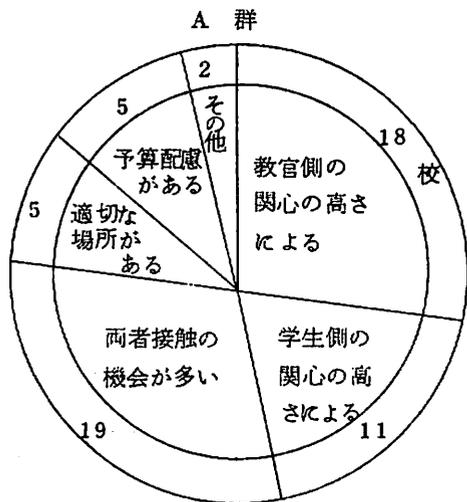
〔活発な場合〕

	回 答	無 記 入
全体	53校	23校

	回 答	無 記 入
A 群	25校	20校

	回 答	無 記 入
B 群	28校	3校





「その他」の内容：授業そのものが個人的接触の上に成り立っている。

研究指導実習指導を中心に学生数が少ない。

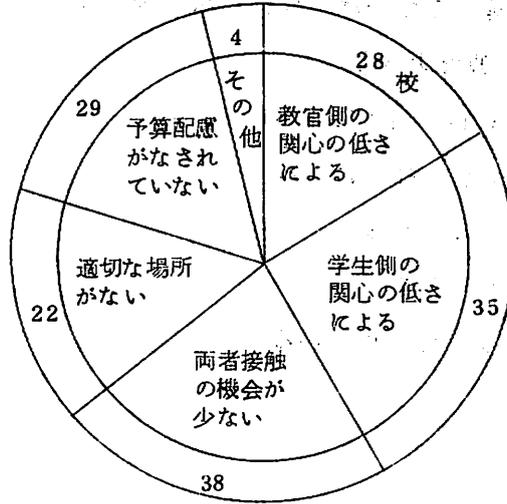
〔低調な場合〕

- 1) 教官側の関心の低さによる
- 2) 学生側の関心の低さによる
- 3) 両者接触の機会が少ない
- 4) 適切な場所がない
- 5) 予算配慮がなされていない
- 6) その他()

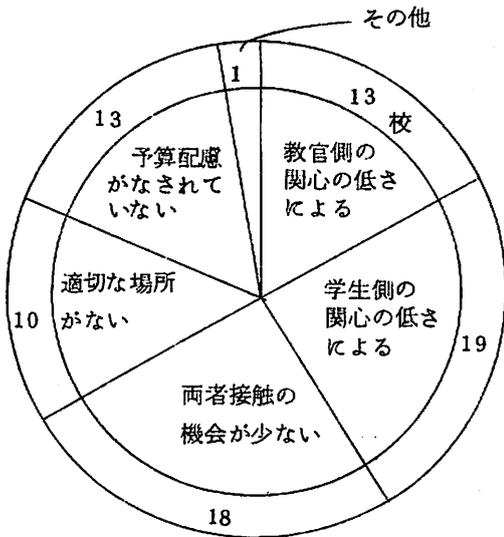
〔低調な場合〕

	回 答	無 記 入
全体	58校	18校
	回 答	無 記 入
A 群	29校	16校
	回 答	無 記 入
B 群	29校	2校

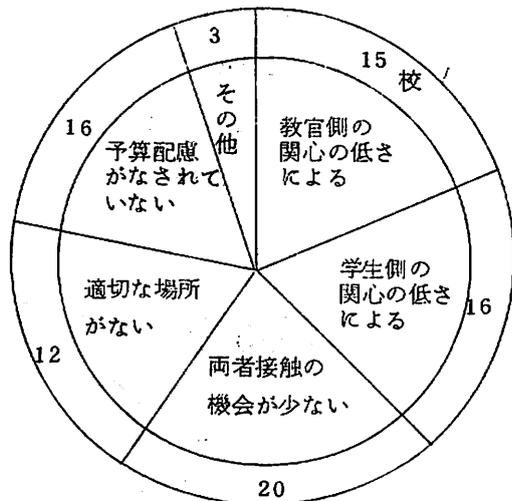
全体



A 群



B 群



「その他」の内容：予算配慮が少ない、教官の個人差により活発または低調、大学紛争のため

13. [※] セミ教官制がある場合、これに伴う活動が活発であったり、あるいは低調であったりする場合、どのような原因が考えられますか。

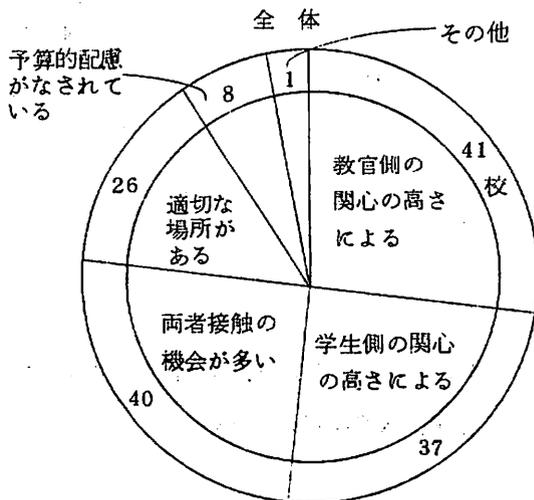
(学部によって異なる場合は空欄に注釈で補って下さい)

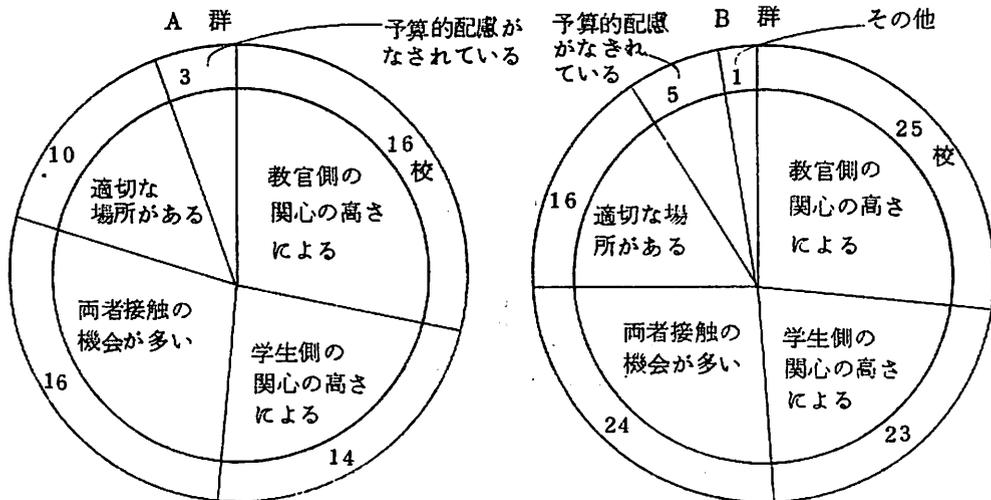
〔高調な場合〕

- 1) 教官側の関心の高さによる
- 2) 学生側の関心の高さによる
- 3) 両者接触の機会が多い
- 4) 適切な場所がある
- 5) 予算的配慮がなされている
- 6) その他()

〔活発な場合〕

	回 答	無 記 入
全体	51校	2.5校
	回 答	無 記 入
A 群	23校	2.2校
	回 答	無 記 入
B 群	28校	3校



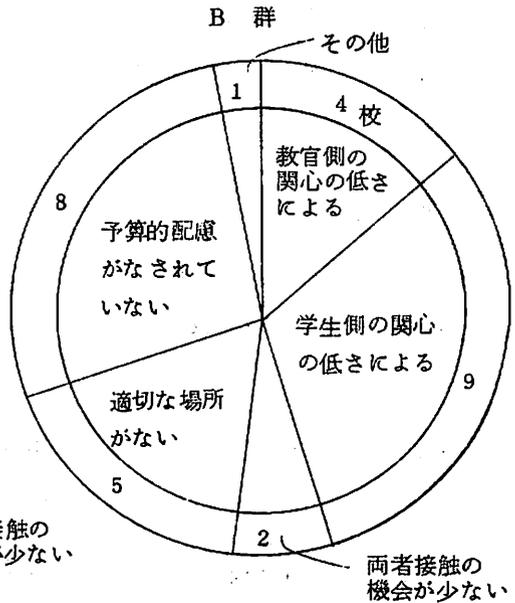
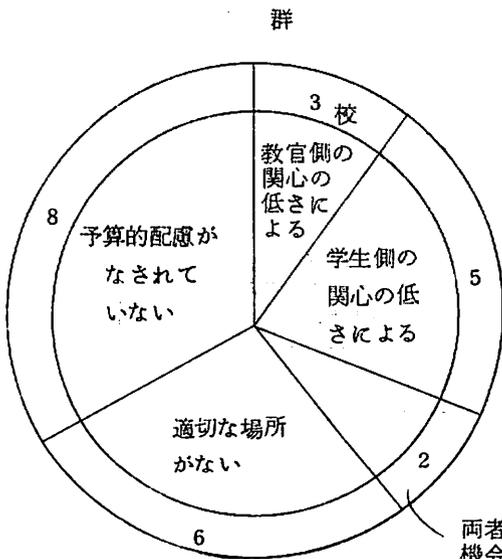
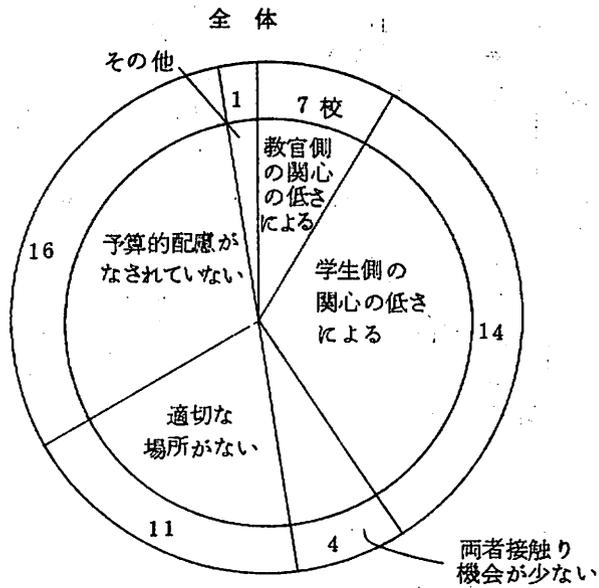


(低調の場合)

- 1) 教師側の関心の低さによる
- 2) 学生側の関心の低さによる
- 3) 両者接触の機会が少ない
- 4) 適切な場所がない
- 5) 予算的配慮がなされていない
- 6) その他()

[低調な場合]

	回 答	無 記 入
全体	26校	50校
A 群	12校	33校
B 群	14校	17校



12^{*}、13^{*}では、クラス担任制、指導教官制、ゼミ教官制に伴う活動が活発、低調の原因は何かを問うたもので、これによると活発な場合としては、教官側の関心の高さによるとするのが50%以上を示し、両者接触の

機会が多い、学生側の関心の高さによる、適切な場所があるという順序になっている。

これに対し、低調な場合としては、クラス担任制または、指導教官制では、両者接触の機会が少ない。学生側の関心の低さによるとする大学が多く、ついで教官側の関心の低さによる、予算配慮がなされていない適切な場所がないの順になっている。

ゼミ教官制では、学生側の関心の低さによる・予算的配慮がなされていないとするのが多く、それについて適切な場所がない・教官側の関心の低さによるの順になっている。

14. (A) 学生を対象とする全学的な刊行物がある場合、それは年間、何回どのような名称、内容のものが出されていますか。

	回 答(ある)	無記入
全体	67校	9校
	回 答(ある)	無記入
A 群	39校	6校
	回 答(ある)	無記入
B 群	28校	3校
回答刊行物数	1 2 3 種	
	A群 6 1 (1校平均 1.6)	B群 6 2 (1校平均 2.2)

年間刊行回数

内容	刊行回数			1 回			2~5			6~10			11~25			不定期			計		
	A群	B群	全体	A	B	全	A	B	全	A	B	全	A	B	全	A	B	全			
学生生活案内	11	種	8	19												11	8	19			
保 健	1		1		1	1										1	1	2			
創作・評論・論文	2		2		1	1										2	1	3			
広 報	1		1	7	6	13	6	6	12	1	11	12	6	4	10	21	27	48			
図書館案内	1		1		1	1		1	1							1	2	3			
実態調査報告	1		1													1		1			
学内一般ニュース	5	1	6	11	14	25	3	5	8	3	1	4	1		1	23	21	44			
不 明					1	1		1	1				1		1	1	2	3			
計	22	9	31	18	24	42	9	13	22	4	12	16	8	4	12	61	62	123			

(B) 広報刊行物のある場合、編集組織はどのようなメンバーで構成されていますか。

	回 答	無 記 入
全体	66校	10校

	回 答	無記入
A 群	38校	7校

	回 答	無記入
B 群	28校	3校

回答刊行物数 112種

A群55種(1校平均1.4)	B群57種(1校平均2.0)
----------------	----------------

編集メンバー 内 容	教 官		教官と事務官		教官と学生		事 務 官		学 生		計 A B 全体
	A群	B群	A	B	A	B	A	B	A	B	
学生生活案内		2種	4	4			3	2			7 8 15
保 健			1	1							1 1 2
創作・評論・論文			1		1				1		2 1 3
広 報	9	15	9	7			2	1			20 23 43
図書館案内			1	2							1 2 3
実態調査報告			1								1 1 1
学内一般ニュース	7	10	11	10			4				22 20 42
不 明			1	2							1 2 3
計	16	27	29	26		1	9	3	1		55 57 112

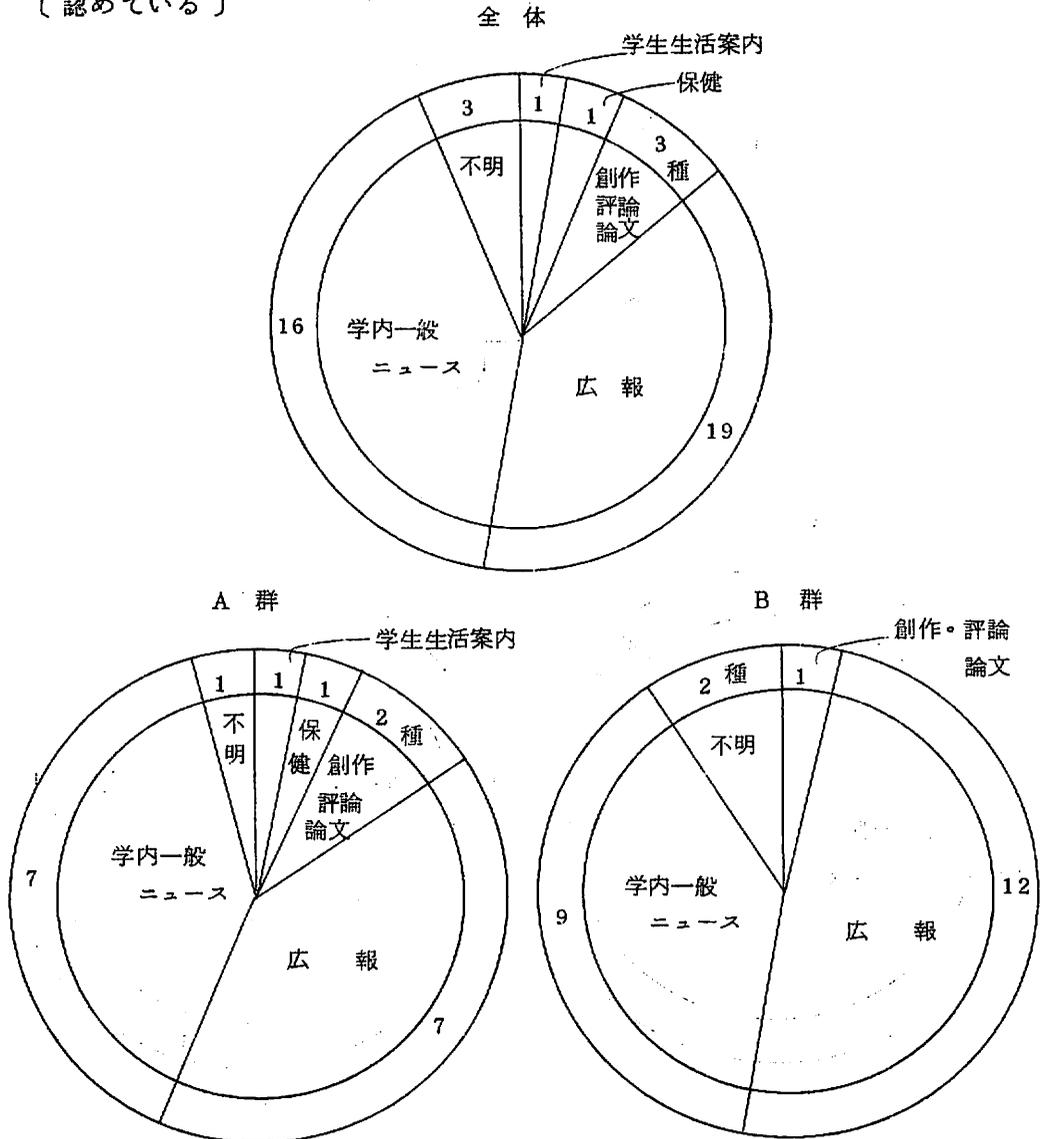
広報、学内一般ニュースは大部分の大学で発行されており、編集メンバーは教官によるもの、教官と事務職員によるものが大半を占め、大学が主体性をとっている。

15. (A) 広報刊行物への学生の投稿を認めていますか。

- 1) 認めている (刊行物名称、)
 2) 認めていない (刊行物名称、)

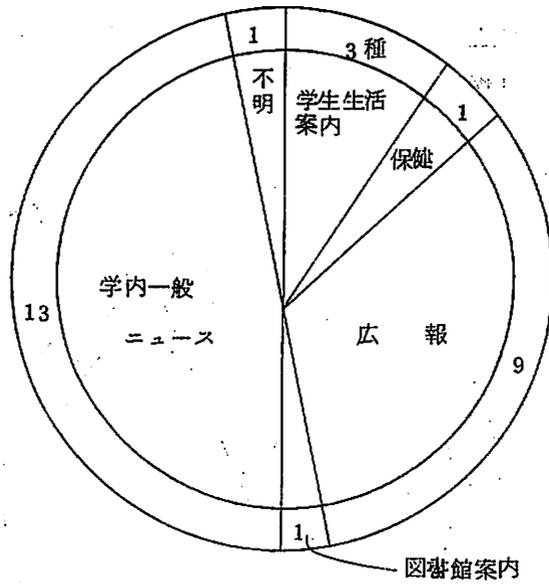
認めている	認めていない	無記入
34校	36校	6校

[認めている]

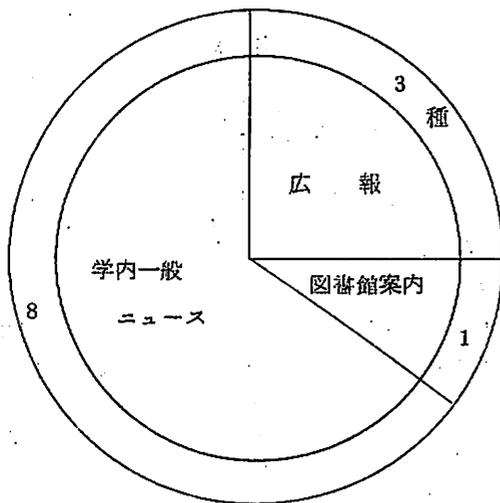


[認めていない]

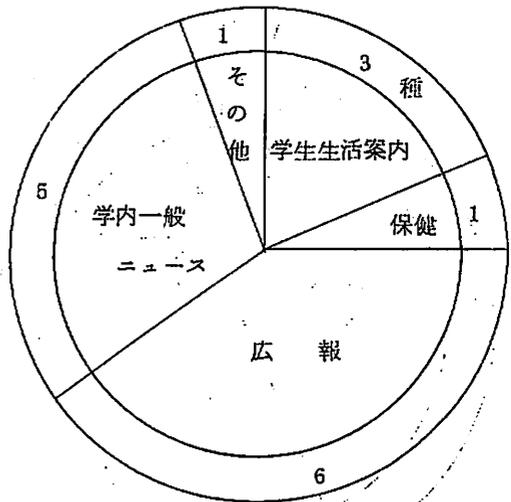
全体



A 群



B 群



(B) 広報刊行物への学生の関心はいかがですか。

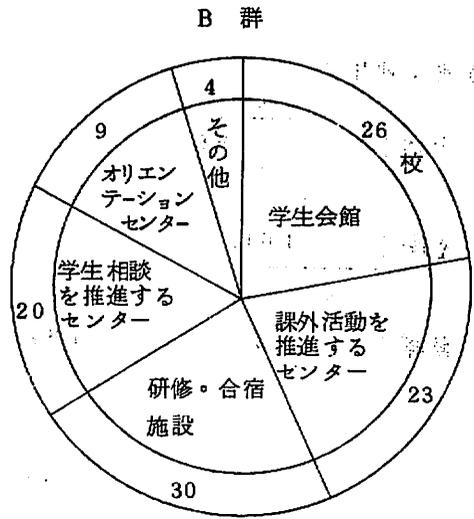
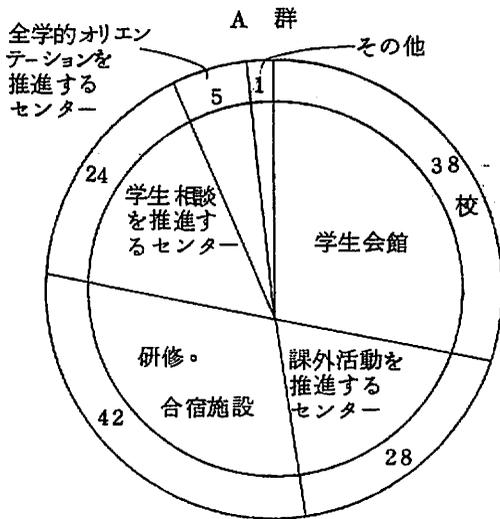
- 1) 大へんつよい
- 2) まあまあというところ
- 3) あまりないようである
- 4) 配布を妨害されている

回 答			無 記 入
62校			14校
6校	50校	6校	
大へん つよい	まあまあというところ	あまり ない	

回 答			無 記 入
34校			11校
2校	30校	2校	
大へん つよい	まあまあというところ	あまり ない	

回 答			無 記 入
28校			3校
4校	20校	4校	
大へん つよい	まあまあというところ	あまり ない	

広報刊行物への学生の投稿を認めているのと認めていないのとは丁度半々の解答が出ており、学生の関心度はまあまあという解答が大半を占めている。



「その他」の内容：小集会室、喫茶・コンパ施設、学生控室（談話室）、研究室・図書館の充実、体育施設

これは、現状における施設の有無とは関わりなく、特に重要と考えられるもの3つを選択させたものである。最高は「研修・合宿施設」で全体の94.7%を占め、以下「学生会館（大学会館）」84.2%、「課外活動を推進するセンター」67.1%、「学生相談を推進するセンター」57.9%の順となっている。

※ 17. 学生会館（大学会館）は、教官と学生とのコミュニケーションの充実を図ることを主たる目的として設立されたものと考えられますが、それがうまく利用されている場合とうまく利用されていない場合、その理由はどこにあると考えますか。

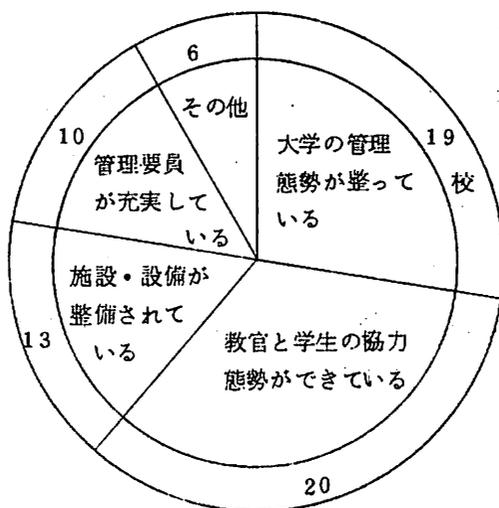
〔うまく利用されている場合〕

- 1) 大学の管理態勢が整っている
- 2) 教官と学生の協力態勢ができています
- 3) 施設設備が整備されている
- 4) 管理要員が充実している
- 5) その他()

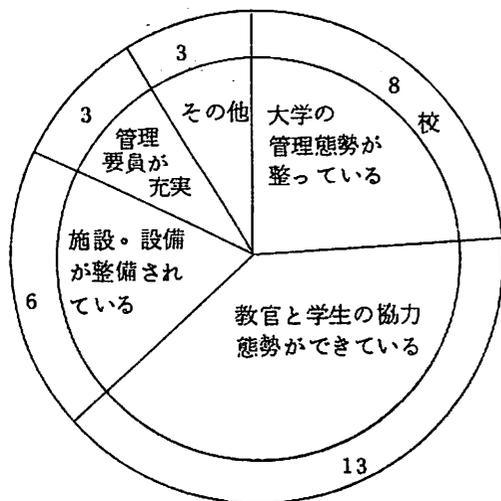
〔うまく利用されている場合〕

	回 答	無 記 入
全体	29校	47校
A 群	16校	29校
B 群	13校	18校

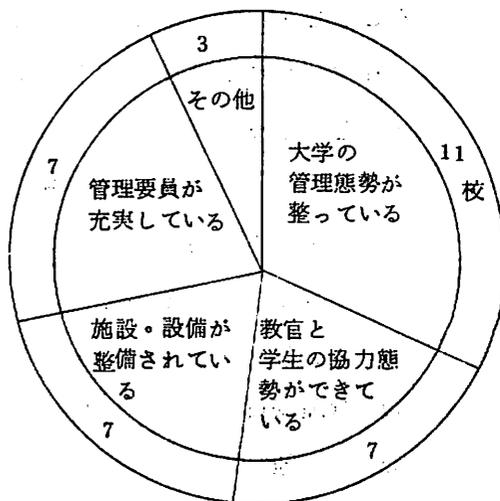
全 体



A 群



B 群



〔うまく利用されていない場合〕

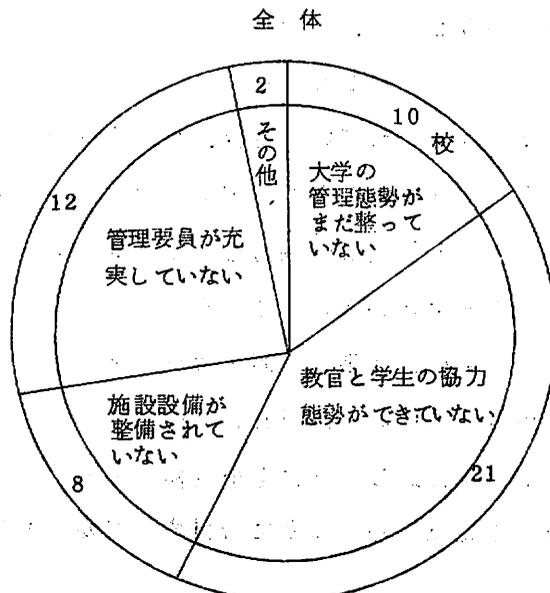
- 1) 大学の管理態勢がまだ整っていない
- 2) 教官と学生の協力態勢ができていない
- 3) 施設設備が整備されていない
- 4) 管理要員が充実していない
- 5) その他()

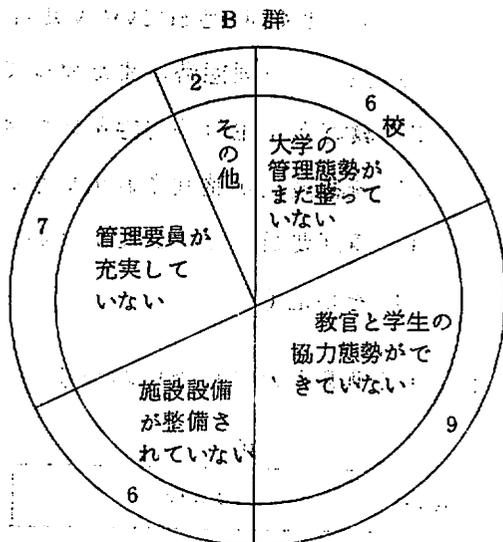
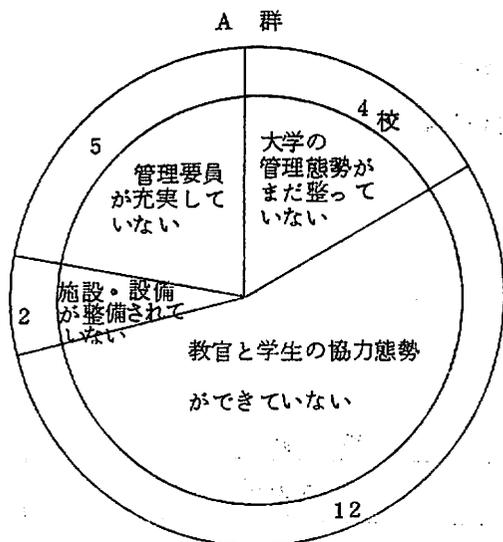
〔うまく利用されていない場合〕

	回 答	無 記 入
全体	23校	53校

	回 答	無 記 入
A 群	12校	33校

	回 答	無 記 入
B 群	11校	20校





うまく利用されている場合の理由としては、「教官と学生の協力態勢ができていない」が回答校全体の69.0%、「大学の管理態勢が整っている」が65.5%とこの2つがもっとも多く、以下「施設設備が整備されている」44.8%、「管理委員が充実している」34.5%の順となっている。

また、うまく利用されていない場合の理由としては、「教官と学生の協力態勢ができていない」が最高で91.3%を占めているが、「管理要員が充実していない」が52.2%、「大学の管理態勢がまだ整っていない」が43.5%あることに注意する必要がある。

すなわち、うまく利用されている場合、うまく利用されていない場合の両方を通じて明らかになったことは、学生会館運営上の条件としてもっとも必要なことは、教官と学生との協力態勢の確立であり、次に必要なことは大学の管理態勢の充実ということである。

つぎに、その他の欄に、「学生会館が教官と学生とのコミュニケーションの場として利用されているとは思われない」との意見がみられ、また「現在の会館は学生数に比し余りにも小規模である」として、その基準面積の拡充を希望する意見があることに着目する必要がある。

18. 学生会館（大学会館）の管理運営についての実情はどうか。

- 1) 大学が管理運営している。
- 2) 大学と学生とが運営委員会などを構成して協力している。
- 3) 学生は自主管理と称して学生だけで運営している。
- 4) その他（ ）

		回 答			無 記 入	
全 体	38校				38校	
	大学が管理運営	13	大学と学生が運営委員会を構成	18		2
自主管理と称して学生だけで運営						

		回 答			無 記 入
A 群	24校				21校
	7	大学と学生が運営委を構成	13	1	
		大学が管理運営している	自主管理と称して学生だけで運営	その他	

		無 記 入			
B 群	14校				17校
	6	5	1	2	
		大学が管理運営	大学と学生が運営委を構成	自主管理と称して学生だけで運営	その他

「その他」の内容：

- 大学と学生とが運営協議会を開催し管理運営に当たっている。だが学生の実際的な利用については学生の自主運営に委ねている。
- 組織上は(2)の体制にあるが、現実には学生協力が無い。
- 会館の管理運営について大学側と学生側が合意せず、現在閉館中である。
- 一部セクト学生は、自主運営と称しているが通常の場合は、大学に

よる使用許可が与えられる。

「大学と学生とが運営委員会などを構成して協力している」と回答している大学が47.4%でもっとも多く、次が「大学が管理運営している」34.2%となっている。この回答内容は、前問1)の回答内容を裏づけるものといえることができよう。すなわち、教官と学生との協力態勢の確立の具体的方策の一つとして、大学と学生との協力による運営委員会などの設置がかなりの大学において行なわれている。

※19. 今後、学生会館（大学会館）を教官と学生とのコミュニケーションの中心的施設として効果的に運営するためには、どのようにすればよいでしょうか。

- 1) 管理要員を増加する
- 2) 運営予算を増額する
- 3) 教官が会館の重要性を再認識する
- 4) 積極的に学生の理解を求め、教官と学生とが協力して運営にあたる
- 5) その他()

	回 答	無 記 入
全体	50校	26校

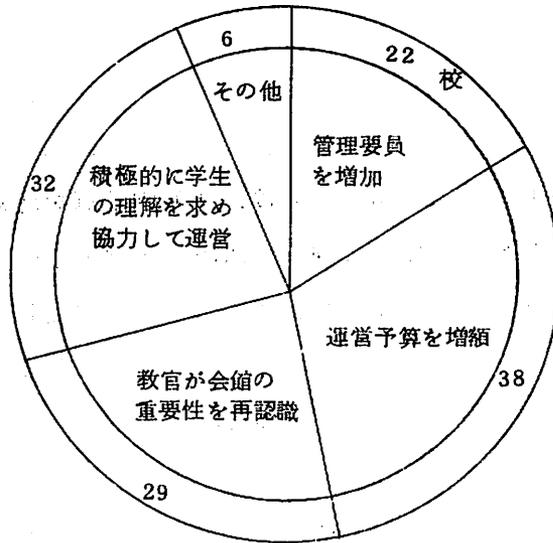
	回 答	無 記 入
A 群	31校	14校

	回 答	無 記 入
B 群	19校	12校

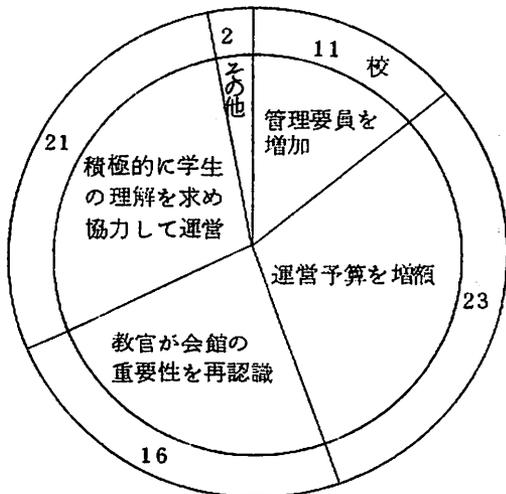
回答運営策数 127

A群73(1校平均2.4)	B群54(1校平均2.8)
---------------	---------------

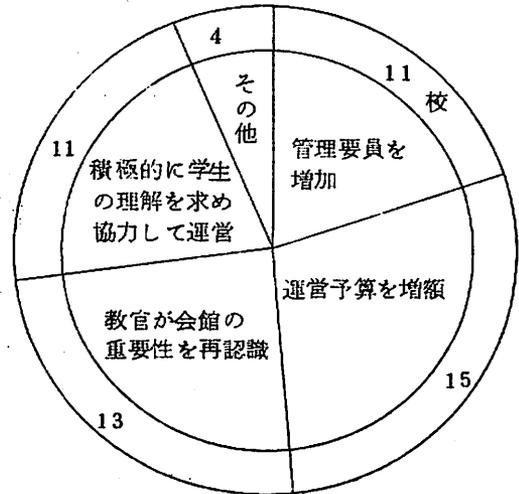
全体



A 群



B 群



「その他」の内容：

- 学生側委員の体質が改善されることが必要
- 施設の拡充（施設の絶対面積が極度に不足）
- 施設設備を更に充実する
- 大学会館としての事業を自らプログラムし、それを推進する
- 一部セクトによる専用を排し一般学生に開放する

回答のうちでもっとも多いのは、「運営予算を増額する」76.0%で、その次が「積極的に学生の理解を求め、教官と学生とが協力して運営にあたる」64.0%となっていて、「運営予算の増額」希望が最高となっている。なお、会館の重要性を教官が再認識することの必要性を強調する意見が58.0%あることに注目する必要がある。

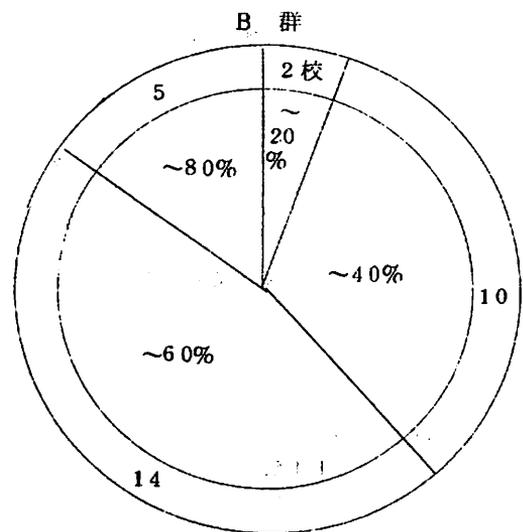
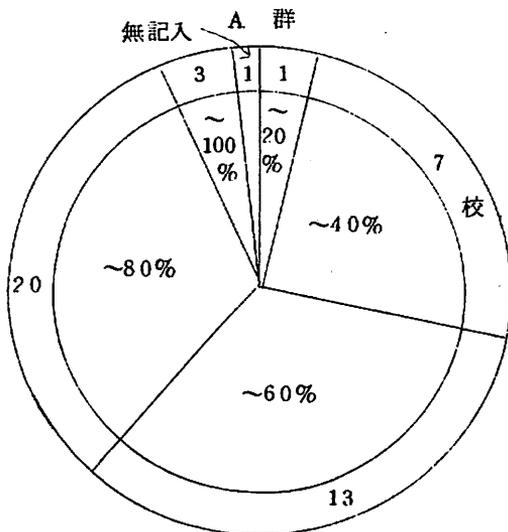
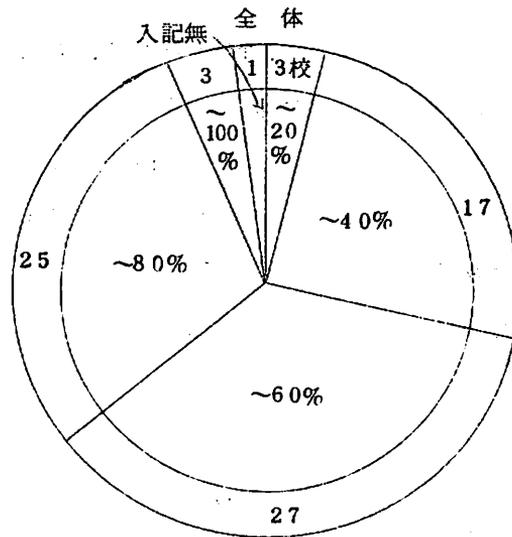
20. 現在、学生会館（大学会館）をもっていない大学は、今後、会館について、どのように考えていますか。

- 1) ぜひとも会館を新営したい
- 2) できれば新営したい
- 3) 新営は考えていない

	回 答			無 記 入
全体	48校			28校
	33校	14校	1	
	ぜひとも新営したい	できれば新営したい	新営は考えていない	
	回 答			無 記 入
A 群	25校		20校	
	18校	7校		
	ぜひとも新営したい	できれば新営したい		
	回 答		無 記 入	
B 群	23校			8校
	15校	7校	1	
	ぜひとも新営したい	できれば新営したい	新営は考えていない	

解答を寄せた大学について見ると、「ぜひとも会館を新営したい」が68.8%、「できれば新営したい」が29.2%、両者あわせて97.9%がなんらかのかたちで新営を希望し、新営不希望は1校となっている。

21. 課外活動（学生自治会活動を除く）として、文化、体育関係のサークル、同好会等に属している学生は、全学生の何%ぐらいですか。



学生の課外活動（学生自治会活動を除き、文化、体育関係のサークル、同好会等による活動をいう。）参加状況は上のグラフの示すとおりである。すなわち、全学生の60%ないし80%が参加していると回答した大学がもっとも多く、全体の68.4%を占めている。さらに、80%以上の参加大学数は36.8%、ほとんど100%参加の大学が3校あることに着目する必要がある。

ナ
一
内

22. (A) 課外活動としてのサークル、同好会等に、教官の顧問、部長等がおかれている状況はどのようなものですか。

〔文化関係では〕

〔体育関係では〕

1) すべてにある

4) すべてにある

2) 一部にある

5) 一部にある

3) 全くない

6) 全くない

〔文化関係〕

回 答			無記入	
全体	75校			1 校
	36校 すべてにある	36校 一部にある	3 全くない	

回 答			無記入	
A 群	44校			1 校
	22校 すべてにある	19校 一部にある	3 全くない	

回 答	
B 群	31校
	14校 17校

〔体育関係〕

		回 答		無記入
全体		75校		1 校
		66校	9校	
		すべてにある	一部にある	

		回 答		無記入
A 群		44校		1 校
		37校	7校	
		すべてにある	一部にある	

		回 答	
B 群		31校	2
		29校	
		すべてにある	一部にある

(注) 「すべてにある」には「ほとんどすべてにある」との回答を含む

サークル、同好会等における教官の顧問、部長等の配置状況は、文化系、体育系によって差がみられ、体育系の方がはるかに充実している。すなわち、体育系では「すべてにある」と回答した大学が88.0%あるのに対して、文化系では48.0%と非常にすくない。

(B) 教官の顧問、部長等が課外活動サークル、同好会等のすべてまたは一部にある場合、一般にそれら教官が、それらのグループの学生に接触している程度はどのようなものですか。

〔文化関係では〕

〔体育関係では〕

- | | |
|---------------|---------------|
| 1) 相当に接触 | 4) 相当に接触 |
| 2) まあまあというところ | 5) まあまあというところ |
| 3) ほとんど接触せず | 6) ほとんど接触せず |

〔文化関係〕

		回 答	無記入
全体	73校		3
	相当に接触1校	52校 まあまあというところ	20校 ほとんど接触せず

		回 答	無記入
A 群	42校		3
	相当に接触1校	31校 まあまあというところ	10校 ほとんど接触せず

		回 答
B 群	31校	
	21校	10校

まあまあというところ ほとんど接触せず

〔体育関係〕

		回 答	無記入
全体	74校		2
	相当に接触	26校	48校 まあまあというところ

		回 答	無記入
A 群	43校		2
	相当に接触	13校	30校 まあまあというところ

		回 答
B 群	31校	
	相当に接触	13校
		18校 まあまあというところ

前問と同様に文化系、体育系によってかなりの差異がみられ、体育系の方が接触の程度が高い。すなわち、体育系では「相当に接触」と回答した大学が35.6%あるのに対して、文化系では「相当に接触」は1.4%しかない。「まあまあというところ」は文化系、体育系ともに同程度であって差異はみられないが、「ほとんど接触せず」は体育系がゼロであるのに対して、文化系は27.4%もある。

23. 部室の充足度はどの程度ですか（本問については同好会を除く）。

1) 各サークルがそれぞれ1つの部室を有している

		回 答				無 記 入
全体	47校					29校
	19校	2	20校	6校		
		運動部関係だけ	↑ 文化部 関係だけ	両方とも	不明	

		回 答				無 記 入
A 群	26校					19校
	11校	1	8校	6校		
		運動部関係だけ	↑ 文化部 関係だけ	両方とも	不明	

		回 答			無 記 入
B 群	21校				10校
	8校	1	12校		
		運動部関係だけ	↑ 文化部 関係だけ	両方とも	

2) 複数サークルで部室を共有している

	回 答				無 記 入
全体	39校				37校
	3校	12校	21校	3校	
	運動部 関係だけ	文化部 関係だけ	両方とも	不明	

	回 答				無 記 入
A 群	23校				22校
	1	7校	12校	3校	
	運動部 関係だけ	文化部 関係だけ	両方とも	不明	

	回 答				無 記 入
B 群	16校				15校
	2	5校	9校		
	運動部 関係だけ	文化部 関係だけ	両方とも		

3) 大部分のサークルが部室を有しない

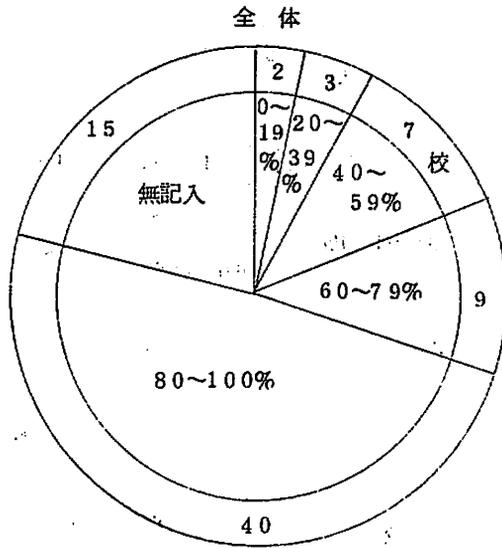
	回 答				無 記 入
全体	16校				60校
	3	4	5	4	
	運動部 関係だけ	文化部 関係だけ	両方とも	不明	

	回 答				無 記 入
A 群	12校				33校
	2	3	3	4	
	運動部 関係だけ	文化部 関係だけ	両方とも	不明	

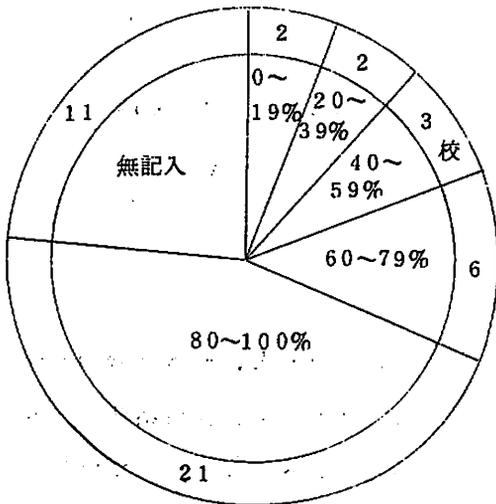
	回 答				無 記 入
B 群	4校				27校
	1	1	2		
	運動部 関係だけ	文化部 関係だけ	両方とも		

部室充足率

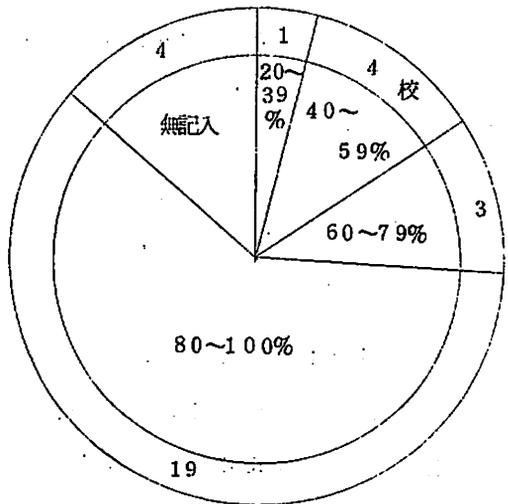
〔運動部関係〕



A 群

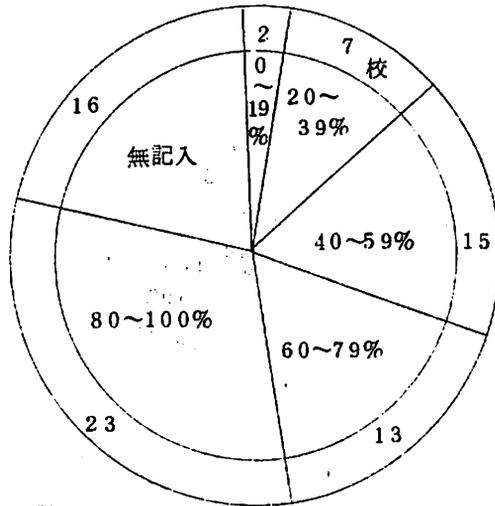


B 群



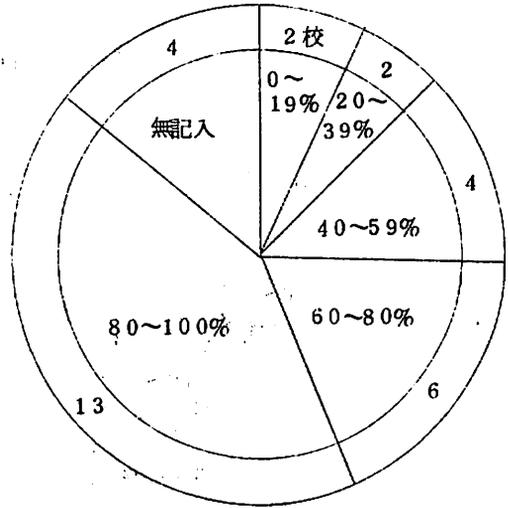
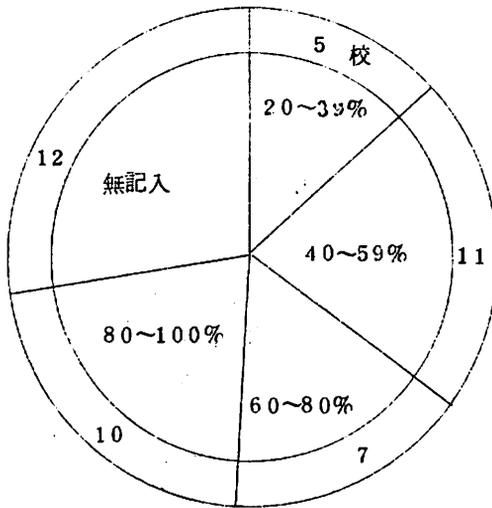
〔文化部関係〕

全体



A 群

B 群



大学全体としてサークル部室の充足度についてみると、約80%のサークルが部室をもっていると回答した大学がもっとも多く、体育系サークルについては65.6%、文化系サークルについては38.3%となっている。

これを専用部室と共用部室とに分けてみると、共用部室と回答した大学が専用部室と回答した大学よりも、僅かに多く（専用部室42.6%、共用部室53.8%）、また専用部室は体育系に多く、共用部室は文化系に多い。

なお、大部分のサークルが部室をもっていないと回答した大学が16校(21%)あることに注目する必要がある。

※ 24. 課外活動に学生が利用する合宿所の現状はいかがですか。

- 1) 運動部関係 ()カ所、総収容人員()名
- 2) 文化サークル関係()カ所、総収容人員()名
- 3) 共 通 ()カ所、総収容人員()名
- 4) 利用状況

[文化関係では]

[体育関係では]

- 1. よく利用する
- 2. まあまあである
- 3. あまり利用しない
- 4. よく利用する
- 5. まあまあである
- 6. あまり利用しない

	回 答	無 記 入
全体	56校	20校

	回 答	無 記 入
A 群	31校	14校

	回 答	無 記 入
B 群	25校	6校

1) 運動部関係

	回 答	無 記 入
全体	20校	56校

	回 答	無 記 入	
A 群	7校	38校	1校平均1.4 施設3.4名収容

	回 答	無 記 入	
B 群	13校	18校	1校平均2.5 施設1.3名収容

2) 文化サークル関係

A群に1校のみ、3施設50名収容

3) 共通

	回 答		無 記 入
全体	48校		28校
A群	29校	16校	1校平均1.6施設62名収容
B群	19校	12校	1校平均2.1施設106名収容

4) 利用状況

(文化関係)

	回 答			無 記 入
全体	54校			22校
	16校	21校	17校	
	よく利用する	まあまあである	あまり利用しない	
A群	30校			15校
	10校	10校	10校	
	よく利用する	まあまあである	あまり利用しない	
B群	24校			7校
	6校	11校	7校	
	よく利用する	まあまあである	あまり利用しない	

〔体育関係〕

	回 答			無 記 入
全体	5 8 校			1 8 校
	5 2 校	5 校	1	
	よく利用する	まあまあである	あまり利用しない	
A 群	3 2 校			1 3 校
	2 7 校	4 校	1	
	よく利用する	まあまあである	あまり利用しない	
B 群	2 6 校		5 校	無記入
	2 5 校	1		
	よく利用する	あまり利用しない		

体育系合宿所をもっていると回答したものの20大学(34.5%)、文化系合宿所をもっていると回答したものの(1.9%)、共通の合宿所をもっていると回答したものの48大学(85.7%)となっている。

利用状況については、文化系と体育系で差があり、体育系では「よく利用する」がもっとも多く89.7%に達しているが、文化系では「まあまあである」が38.9%、「あまり利用しない」が31.5%となっていて、利用度の低さが目につく。

25. 課外活動のための合宿所がある場合、教官と学生の交流の場として、どの程度、役立っていますか。

〔文化関係では〕

〔体育関係では〕

- | | |
|---------------|---------------|
| 1) 大いに役立っている | 4) 大いに役立っている |
| 2) まあまあというところ | 5) まあまあというところ |
| 3) あまり役立っていない | 6) あまり役立っていない |

〔文化関係〕

		回 答			無 記 入
全 体	5 2 校				2 4 校
	5 校	1 8 校	2 9 校		

大いに役 まあまあと あまり役立っていない
立っている いうところ

		回 答			無 記 入
A 群	2 9 校				1 6 校
	4 校	8 校	1 7 校		

大いに役 まあまあと あまり役立
立っている いうところ っていない

		回 答			無 記 入
B 群	2 3 校				8 校
	1	1 0 校	1 2 校		

大いに役 まあまあと あまり役立っ
立っている いうところ いない

〔体育関係〕

		回 答			無 記 入
全 体	5 9 校				1 7 校
	1 2 校	2 1 校	2 6 校		

大いに役立っ まあまあと あまり役立っ
ている いうところ っていない

		回 答			無 記 入
A 群	3 0 校				1 5 校
	3 校	1 2 校	1 5 校		

大いに 役立っ まあまあと あまり役立っ
ている いうところ っていない

		回 答			無 記 入
B 群	2 9 校				2 校
	9 校	9 校	1 1 校		

大いに役立 まあまあと あまり役立
っている いうところ っていない

この設問に対する回答としては、文化系サークル、体育系サークルともに「あまり役立っていない」とする大学が多く、「大いに役立っている」とする大学は僅少で、体育系で20%、文化系で1.0%とすくない。

26. (A) 学生相談のための特定の施設はありますか。

- 1) 特定の施設がある
- 2) 準じる施設がある
- 3) なにもない

		回 答			無記入
全体		75校			1
		33校	23校	19校	
		特定の施設がある	準じる施設がある	なにもない	

		回 答			無記入
A 群		44校			1
		11校	18校	15校	
		特定の施設 がある	準じる施設がある	なにもない	

		回 答		
B 群		31校		
		22校	5校	4校
		特定の施設がある	準じる 施設が ある	なにもない

全体として回答校のうち何らかの学生相談施設があると答えたのは74.6%、特定の相談施設がある大学44%、それに準ずる施設を有する大学30.6%、ないのが25.3%となっているが、A群とB群を比較するとA群においては、特定の施設があるのは25%にすぎないのに対して、B群では71%が特定の施設をもっている。これは大規模大学においては、教

室、研究室といった授業の面を通じてのみでは教職員と学生間のコミュニケーションが不可能になってきていることの反映ともみられよう。

なお、文部省大学学術局が昭和37年に行った学生相談に関する調査と比較すると特定の施設をもつ大学数の増加は認められないが、準じる施設は増加し、相談施設を全くもたない大学の数は、この10年間に34校(47.2%)から19校(25%)に減っている。

(B) 学生相談のための特定の施設がない場合、今後、大学としてはどのように考えられていますか。

- 1) 目下、準備中である、ただしその所管部局は()
- 2) 設置を希望している、ただしその所管部局は()
- 3) 設置を希望していない

回 答		無記入	「所管部局」	
全体	38校		4校	1) 保健管理センター…1校 学生部 5校 2) 学生部 26校 学部 3校 全学 1校
	6校	30校		
	目下準備中	設置を希望している	設置を希望していない	
回 答		無記入		
A 群	29校		4校	
	4校	23校		2
	目下準備中	設置を希望している	設置を希望していない	
回 答				
B 群	9校			
	2	7校		
	目下準備中	設置を希望している		

(注) 母集団は設問2.6(A)1), 2)の回答校42校(A群33校、B群9校)

特定の学生相談施設をもたない大学42校の将来計画では、回答校38校のうち、目下、開設準備中が4校10.5%で、設置希望校が30校86.8%で、ほとんどが学生相談室を必要としており、必要なしとする意見はA

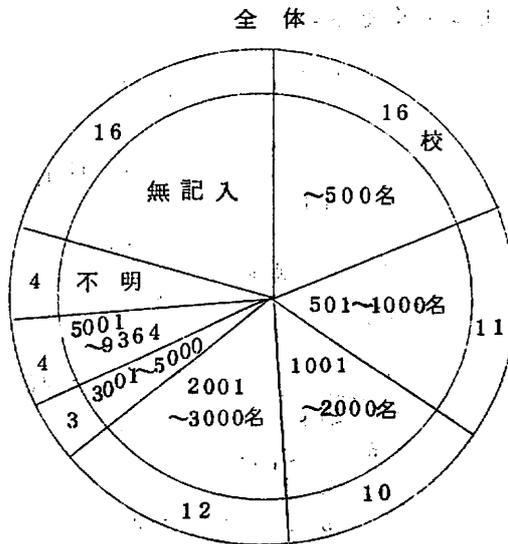
群の大学においてわずか2校5.3%しかみられない。

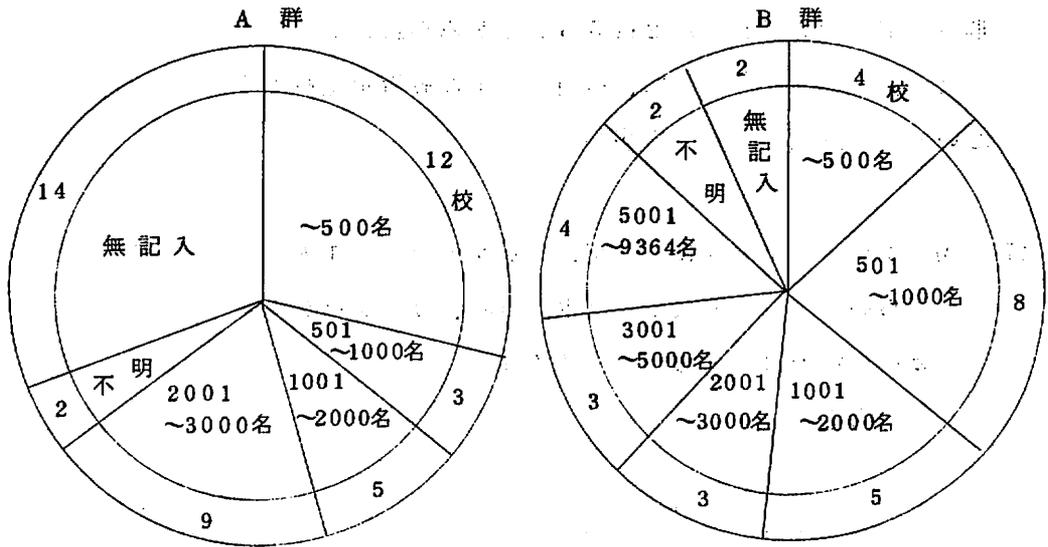
なお、所管部局としては、準備中および設置希望校ともに学生部に置きたいとする意見がもつとも多い。

27. (A) 現在の全学生数に対して、カウンセラー等1人当りの学生数はどれくらいですか（大学院学生を含み、カウンセラー等にはケースワーカー、精神医を含めて計算する）。

約()人

	回 答	無 記 入
全体	60校	16校
A群	31校	14校
B群	29校	2

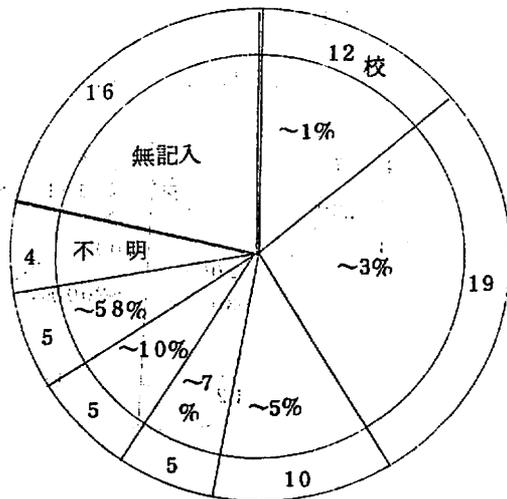


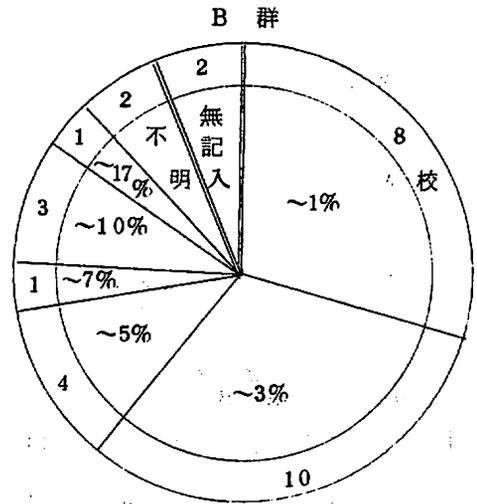
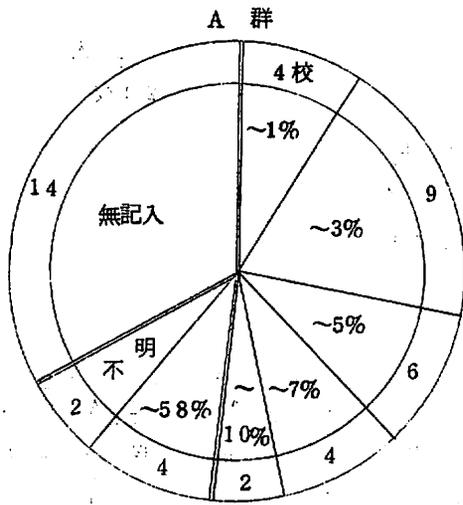


学生相談担当者1人当りの対象学生数は、500名程度から9,000名以上と中が極めてひろく、一応適当と考えられている1,000名以下の大学は、A群で12校38.7%、B群で4校13.8%しかなく、3,000名以上の大学7校はすべてB群の大学で約4分の1にあたる24.1%である。

(B) 昭和46年度の学生相談施設への来談学生実人員は、当時の全学生数の何%ぐらいですか(大学院を含み、延面接回数ではなく、年度内の実人員によってください)。

約()% 全体





回答大学数について見るとA群では最高58%、B群では最高17%の学生の来談を扱っている相談室もあるが、A、B群とも最も多いのは1~3%の来談率の大学で、31.7%である。

一般に在学生の約5%来談するのが、学生相談の望ましい姿と考えられているが、この条件を満しているのはA群で59.3%、B群で39.3%しかなく、理想的な姿からはなお遠いようである。

(C) 昭和46年度の学生相談施設への来談学生の問題内容は、どのような構成比になりますか（下記と異なる分類の場合は、それぞれにあてはめ、また、構成比を算出できぬ場合は、多いものから順位を記してください）。

〔順位〕

- | | |
|----------------|-----|
| 1) 修学問題()% | () |
| 2) 職業問題()% | () |
| 3) 心理適応問題()% | () |
| 4) 健康問題()% | () |
| 5) 経済問題()% | () |
| 6) その他() ()% | () |

	回 答	無 記 入
全体	55校	21校

	回 答	無 記 入
A 群	27校	18校

	回 答	無 記 入
B 群	28校	3校

領域 構成比	修 学			職 業			心 理			健 康			経 済			その他		
	A	B	全	A	B	全	A	B	全	A	B	全	A	B	全	A	B	全
～ 10%	6	3	9	2	11	13	7	3	10	5	4	9	5	7	12	5	6	11
11～ 20	1	1	2	2		2	4	4		1	3	4	2		2	1	2	3
21～ 30		2	2	1	1	2	1	3	4	1	1	2						
31～ 40	2	1	3				1	1	2							1	1	
41～ 60	1	5	6				4	2	6	4	2	6						
61～100	2	4	6				5	3	8	1	2	3						
計	12	16	28	5	12	17	18	16	34	12	12	24	7	7	14	6	9	15
該当領域が ない	15	12	27	22	16	38	9	12	21	15	16	31	20	21	41	21	19	40
回答計	27	28	55	27	28	55	27	28	55	27	28	55	27	28	55	27	28	55

領域 順位	修 学			職 業			心 理			健 康			経 済			その他		
	A	B	全	A	B	全	A	B	全	A	B	全	A	B	全	A	B	全
1	8	15	23	2	1	3	8	6	14	4	5	9				1	1	
2	4	7	11	3	3	6	7	11	18	5	4	9	2	2	4	1	1	2
3	5	3	8	3	4	7	3	5	8	4	6	10	6	5	11	1	5	6
4	1	1	2	3	8	11	2	1	3	3	1	4	2	4	6	3	5	8
5	1		1	2	2		1	1	2	2	3	5	2	2	4	2	2	4
6							1	1		1	1		2	2		1	2	3
計	19	26	45	11	18	29	21	25	46	18	20	38	12	15	27	8	16	24
該当領域が ない	8	2	10	16	10	26	6	3	9	9	8	17	15	13	28	19	12	31
回答計	27	28	55	27	28	55	27	28	55	27	28	55	27	28	55	27	28	55

相談室であつかう相談内容を種類別構成比、順位からみたのであるが、
 全体として心理相談、修学相談、健康相談が多く、職業、経済、その他を
 内容とする相談は少い。A群、B群別に見る場合にも大体、同様のことが
 といえるが、A群に比べB群において特に修学相談、職業相談の多いことが
 注目される。

28. 学生相談活動について、これまで学内の教官や学生一般から批判された
 ことはありますか。

- 1) なにもない
- 2) ある、ただし、その批判点()

	回 答		無 記 入
全 体	62校		14校
	55校 なにもない	7校 ある	

	回 答		無 記 入
A 群	34校		11校
	32校 なにもない	2 ある	

	回 答		無 記 入
B 群	28校		3校
	23校 なにもない	5校 ある	

「批判」の内容：総合的な相談を受けられるような施設、人員を揃えよ。
 モーズレイテストに対して一部学生から批判がある。担当者が
 ケース・バイ・ケースで私的に専門教官に依頼していること
 に対する批判、カウンセラーの資質の問題。補導教官によ

る相談と学生相談員による相談連絡について、「保安処分」問題に関連して部屋の前に落書きされたことがある。復学指導について学部との意見がくいちがったため。

相談室に対する批判はないと答えている大学が回答校の88.7%、55校と大部分であるが、A群の94.1%の批判なしと比べ、B群では82.1%と若干少ない。

※29. 学生相談施設の管理運営について、今後、改善を要すると考えられる問題点はどのようなものですか。

1) 所管部局について

	回 答	無 記 入
全体	17校	59校

	回 答	無 記 入
A 群	7校	38校

	回 答	無 記 入
B 群	10校	21校

学長直屬とするか学生部または保健管理センター所屬とするかについての問題があるが、各大学ともなお結論にいたるまで十分論じつくされていないようである。しかし、制度的に独立した組織、人員、予算をもつべきであるという点では、一致している。

2) スタッフについて

	回 答	無 記 入
全体	41校	35校

	回 答	無 記 入
A 群	18校	27校

	回 答	無 記 入
B 群	23校	8校

専任カウンセラーの定員化ならびに増員を求める意見が圧倒的に多い。

3) 活動領域について

	回 答	無 記 入
全体	14校	62校
A 群	4校	41校
B 群	10校	21校

現在は、精神衛生に偏した相談活動を主としているが、これらの機能に加え今後より積極的にオリエンテーション機能を含め広く日常一般の学園生活の中に滲透する活動をすべきだとする意見が多い。

4) 保健施設または他の学生相談施設との関連について

	回 答	無 記 入
全体	25校	51校
A 群	10校	35校
B 群	15校	16校

保健施設としては、保健管理センターがあり、それとの関係が問題となっているが、統合を論じているもの4校に対し、ニュアンスの強弱はありながら分離して設置し、両者間に緊密な有機的関連を持たせるのが望ましいとする意見が大半である。

5) その他

	回答	無記入
全体	12校	64校
A群	4校	41校
B群	8校	23校

現状の施設、人員の不備をうたせると共に、気軽に学生に利用される施設たるべく努力しなければならないという意見が多い。

IV 行 事

※ 30. 学園祭や体育祭等の全学的年中行事は、年間、何回、どのような名称、内容のものが行なわれていますか。

	回 答	無記入
全体	75校	1

	回 答
A群	45校

	回 答	無記入
B群	30校	1

体育関係単独行事（体育祭等）

	回 数					計	教 職 員 参 加 度			
	1	2	3	不定期	不 明		ほとんどなし	まあまあ	かなり	不 明
A 群	27校	3	2	1	1	34	14	12	5	3
B 群	25			1	2	28	12	5	4	7
全 体	52	3	2	2	3	62	26	17	9	10

文化関係単独行事（学園祭等）

	回 数		計	教 職 員 参 加 度			
	1	不 明		ほとんどなし	まあまあ	かなり	不 明
A 群	22校	1	23	7	8	3	5
B 群	19		19	14	4	1	
全 体	41	1	42	21	12	4	5

文化関係・体育関係併催行事（学園祭等）

	1 回	教 職 員 参 加 度			
		ほとんどなし	まあまあ	かなり	不 明
A 群	21校	3	13	3	2
B 群	8	3			5
全 体	29	6	13	3	7

新入生歓迎会

	1 回	教 職 員 参 加 度			
		ほとんどなし	まあまあ	かなり	不 明
A 群	11校	3	4	1	3
B 群	10	10			
全 体	21	13	4	1	3

学園祭（内容不明）

	回 数		計	教 職 員 参 加 度			
	1	不 明		ほとんどなし	まあまあ	かなり	不 明
A 群	10校	1	11	3	6		2
B 群	7	1	8	4	2		2
全 体	17	2	19	7	8		4

寮 祭

	回 数		計	教 職 員 参 加 度			
	1	2		ほとんどなし	まあまあ	かなり	不 明
A 群	6校	1	7	5	1		1
B 群	3		3	3			
全 体	9	1	10	8	1		1

研修会・セミナー等

	回 数		計	教 職 員 参 加 度			
	1	4		ほとんどなし	まあまあ	かなり	不 明
A 群	1校		1		1		
B 群	3	1	4		2		2
全 体	4	1	5		3		2

そ の 他

	1 回	教 職 員 参 加 度			
		ほとんとなし	まあまあ	かなり	不 明
A 群	1校				1
B 群	2	2			
全 体	3	2			1

全行事（教職員参加度）

参加度 群	ほとんとなし	まあまあ	かなり	不 明	計
A 群	35種	45	12	17	109
B 群	48	13	5	16	82
全 体	83	58	17	33	191

列挙された行事を整理してみると学園祭、体育祭、新入生歓迎会、寮祭、研修会セミナー、その他であるが、学園祭はその内容により、さらに3つに細分した。このようにしてみるとA、B群とも体育関係単独行事が最も多く（A群75.6%、B群93%）でこれに文化関係単独行事（A群51.1%、B群63.3%）、体育、文化併催行事（A群46.7%、B群26.7%）、新入生歓迎会（全体28%）、学園祭（内容不明）（全体22.7%）、寮祭（全体13.3%）、研修セミナー（全体5.3%）と続いている。

全行事としてみるとA群109行事（1校平均2.4行事）、B群82行事（1校平均2.7行事）が行なわれていることになる。

教職員の参加は、A群の方がB群に比し良好であるが、それでも「まあまあ」が41.4%で「ほとんとなし」が32.2%と低調である。

31 新入生に対する特別なオリエンテーション行事は行なわれていますか。

1) 行なっている (全学合同で、各学部・教養部別に、全学合同と各学部・教養部別の2本立)

2) 行なっていない

行なっている

全体	76校			
	22校	20校	28校	6校
	全学合同で	各学部・教養部別に	全学合同と各学部・教養部別の2本立	無記入

行なっている

A群	45校			
	17校	11校	14校	3校
	全学合同で	各学部・教養部別に	全学合同と各学部・教養部別の2本立	無記入

行なっている

B群	31校			
	5校	9校	14校	3校
	全学合同で	各学部・教養部別に	全学合同と各学部・教養部別の2本立	無記入

大部分が新入生に対するオリエンテーションを行なっている。A群では全学合同のオリエンテーションのみの場合が最も多く17校(37.8%)、全学合同と各学部、教養部別の2本立14校(31.1%)が次いでいる。B群では逆に全学合同、各学部、教養部別の2本立14校(45.2%)が最も多く、全学合同のみの大学は、わずか5校(16.1%)である。

※32 新入生に対するオリエンテーション行事を企画・主催するのは、次のどれですか。

〔企画〕

1) 学生部(学生代表を含む・含まない)

- 2) 教養部（学生代表を含む・含まない）
- 3) 全学的なオリエンテーション委員会（学生代表を含む・含まない）
- 4) 学生側（自治会・サークル）
- 5) その他

〔企画〕 1) 学生部

	学生代表含む	含まない	無記入	計
A 群	5 校	2 7		3 2
B 群	2	1 2	1	1 5
全 体	7	3 9	1	4 7

2) 教養部

	学生代表含む	含まない	無記入	計
A 群		9	1	1 0
B 群	1 校	1 3		1 4
全 体	1	2 2		2 4

4) 学生側

	自治会	サークル	無記入	計
A 群	7 校	6	8	2 1
B 群	7	7	2	1 6
全 体	1 4	1 3	1 0	3 7

「その他」：3 0 校 A 群 1 5 校 B 群 1 5 校
 学部毎 2 0 校（A 9、B 1 1）、各学科 3 校、学生部・教養部合同 2 校、学生生活委員会、教務委員会、類連絡会議各 1 校。

なお「全学的オリエンテーション委員会」はなかった。

新入生オリエンテーションの〔企画〕には、学生部が単独であたるのが最も多く 4 7 校（6 1.8%）、これについて教養部 2 4 校（3 1.6%）、

学部 20 校 (26.3%) となっている。一方、学生側の企画も 37 校 (48.7%) があることが注目される。

〔主 催〕

- 1) 学生部 (学生代表を含む・含まない)
- 2) 教養部 (学生代表を含む・含まない)
- 3) 全学的なオリエンテーション委員会 (学生代表を含む・含まない)
- 4) 学生側 (自治会・サークル)
- 5) その他

〔主催〕 1) 学生部

	学生代表含む	含まない	無記入	計
A 群	3 校	26	3	32
B 群	2	11		13
全 体	5	37	3	45

2) 教養部

	学生代表含む	含まない	無記入	計
A 群		8		8
B 群	1 校	13	1	15
全 体	1	21	1	23

4) 学生側

	自治会・サークル	無記入	計
A 群	6 校	10	16
B 群	8	7	15
全 体	14	17	31

「その他」: 2 2 校 A 群 9 校 B 群 13 校
 学部毎 17 校 (A 8、B 9)、学生部教養部合同 2 校
 各学科 2 校、類連絡会議 1 校

なお「全学オリエンテーション委員会」は 1 校(A)…企画では「その他」

オリエンテーション「主催」については、学生部主催が45校(59.2%)と最も多く、教養部主催23校(30.3%)が次いでいる。学生団体の主催する新入生のオリエンテーションを行なっている大学は14校あるが、大学側のオリエンテーションを学生代表と共催とする大学は、企画の場合同様、極めて少ない。

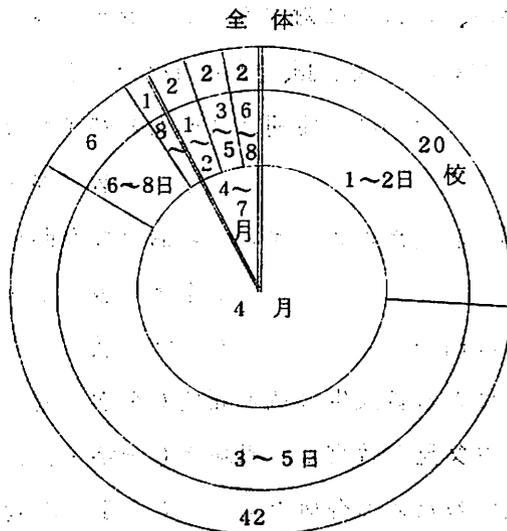
なお、企画・主催とも、A群の大学では学生部が中心となり、B群の大学では学生部と教養部が協力しあっており、設問31の全学合同の場合の主体は、学生部が中心になってあっているものと考えられる。

33. 新入生に対するオリエンテーションの実施時期、日数はどれ程ですか。

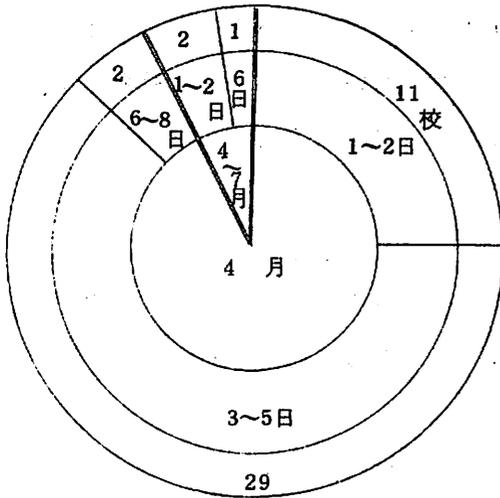
	回答	無記入
全体	75校	1

	回答
A群	45校

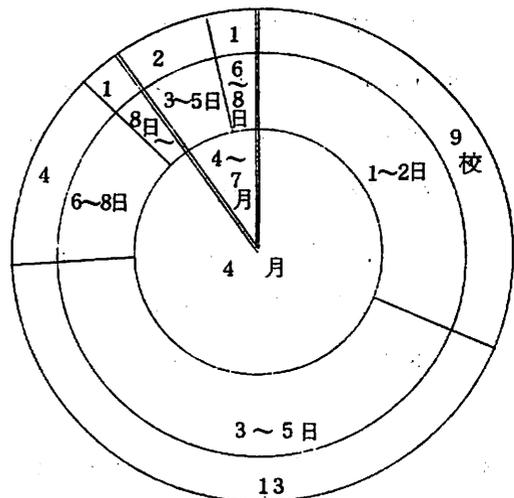
	回答	無記入
B群	30校	1



A 群



B 群



4月中に行なう大学が最も多く69校(92%)で、一部の大学では4月から7月にわたるところもある。

なお、日数は3~5日のところをもっとも多く44校(58.7%)で、1~2日がこれに次ぐ22校(29.3%)。

※34 (A) 本年度、新入生に対するオリエンテーション行事の内容は、どのようなものですか。(大学側、学生側を含む)。

- 1) 新入生のために一定期間にわたる特別なカリキュラムの編成
(全学・教養部・ _____ 学部)
- 2) 学部、教養部のカリキュラムおよび進路についての説明
(全学・教養部・ _____ 学部)
- 3) 教官の紹介
(全学・教養部・ _____ 学部)
- 4) 教官による新入生の個別面接(全学・教養部・ _____ 学部)
- 5) 新入生父兄と教官との懇談会(全学・教養部・ _____ 学部)
- 6) 新入生のための合宿セミナー(全学・教養部・ _____ 学部)

7) 学風、伝統に親しませるための座談会

(全学・教養部・ _____ 学部)

8) 学内の諸規定や制度、施設 (厚生福祉施設・心身の健康保持に関する施設・図書館) の説明 (全学・教養部・ _____ 学部)

9) 学生自治会よりの案内 (全学・教養部・ _____ 学部)

10) サークルの紹介、参加への勧誘 (全学・教養部・ _____ 学部)

11) 学内施設の実地案内 (全学・教養部・ _____ 学部)

12) 地域社会の実地案内 (全学・教養部・ _____ 学部)

13) そ の 他 (全学・教養部・ _____ 学部)

1) 新入生のための一定期間にわたる特別なカリキュラムの編成

(回答 A 群 14 校、 B 群 7 校)

行なう主体	全学	教養部	学部	無記入	計 (1 校平均)
A 群	7 校	2	4	2	15
B 群		5	5		10
全体	7	7	9	2	25

2) 学部、教養部のカリキュラムおよび進路についての説明

(回答 A 群 39 校、 B 群 30 校)

行なう主体	全学	教養部	学部	無記入	計 (1 校平均)
A 群	24 校	4	15		43
B 群	8	17	18	1	44
全体	32	21	33	1	87

3) 教官の紹介

(回答 A 群 25 校、 B 群 21 校)

行なう主体	全学	教養部	学部	無記入	計 (1 校平均)
A 群	11 校	3	13		27
B 群	4	8	13		25
全体	15	11	26		52

4) 教官による新入生の個別面接 (回答A群10校、B群11校)

行なり 主体	全学	教養部	学部	無記入	計
A 群	1校	2	4	3	10
B 群	2	4	5		11
全体	3	6	9	3	21

5) 新入生父兄と教官との懇談会 (回答A群19校、B群8校)

行なり 主体	全学	教養部	学部	無記入	計
A 群	9校	1	9		19
B 群		1	7		8
全体	9	2	16		27

6) 新入生のための合宿セミナー (回答A群20校、B群17校)

行なり 主体	全学	教養部	学部	無記入	計
A 群	10校	2	6	2	20
B 群	3	8	5	1	17
全体	13	10	11	3	37

7) 学風、伝統に親しませるための座談会 (回答A群4校、B群3校)

行なり 主体	全学	教養部	学部	無記入	計
A 群			4校		4
B 群			3		3
全体			7		7

8) 学内の諸規定や制度、施設の説明 (回答A群43校、B群26校)

行なり 主体	全学	教養部	学部	無記入	計
A 群	30校	1	8	4	43
B 群	11	11	6		28
全体	41	12	14	4	71

9) 学生自治会よりの案内 (回答A群35校、B群19校)

行なう主体	全学	教養部	学部	無記入	計
A群	18校	2	10	5	35
B群	5	10	4		19
全体	23	12	14	5	54

10) サークルの紹介、参加への勧誘(回答A群40校、B群28校)

行なう主体	全学	教養部	学部	無記入	計
A群	29校	1	7	3	40
B群	18	4	4	2	28
全体	47	5	11	5	68

11) 学内施設の実地案内 (回答A群8校、B群11校)

行なう主体	全学	教養部	学部	無記入	計
A群	2校		3	3	8
B群	1		9	1	11
全体	3		12	4	19

12) 地域社会の実地案内 (回答A群1校、B群1校)

行なう主体	全学	教養部	学部	無記入	計
A群			1校		1
B群			1		1
全体			2		2

13) その他 (回答A群7校、B群3校)

行なう主体	全学	教養部	学部	無記入	計
A群	4校		2	1	7
B群	1		2		3
全体	5		4	1	10

オリエンテーションとして最も重視されているのは、カリキュラムおよび進路についての説明および学内諸規定や制度施設の説明であり、69大学(90.8%)で行なわれている。次いで学生代表によるサークルの紹介68校(89.5%)が多く、学生自治会よりの案内54校(71.1%)、教官の紹介46校(60.5%)、新入生のための合宿セミナー37校(48.7%)、父兄と教官との懇談会27校(35.5%)、新入生向け特別カリキュラムの編成21校(27.6%)、教官による新入生の個別面接21校(27.6%)等が続いている。

学内諸規定の説明、サークル紹介、自治会よりの案内は、全学合同のオリエンテーションで、教官の紹介、学内の実地案内については学部で行なわれるオリエンテーションの際に行なわれる。父兄との懇談会も学部が行なうことが多い。

(B) 新入生オリエンテーションのための特定の刊行物は出されていますか。

1) いる 2) いない

いるとすれば、どのような内容のものですか

		回 答	無記入
全体		75校	1
		64校	
		刊行物がある	ない

		回 答	無記入
A群		44校	1
		36校	
		刊行物がある	ない

B群		31校	
		28校	3校
		刊行物がある	ない

「オリエンテーション用刊行物」の内容

学生便覧(37校)、学生生活案内(20)、施設概況(1)、学部・学科・研究室案内(7)、教養部案内(6)、教官案内(2)、履習案内(15)、授業案内(15)、ゼミ紹介(1)、新入生オリエンテーションの手引き(5)、図書館の手引き(10)、保健管理センター案内(3)、学生相談の手引き(2)、クラブ活動案内(2)、栄養のしおり(1)、指定図書(3)、図書館利用の手引き(10)、学園生活紹介と案内(16)

オリエンテーションのための特定の刊行物がある大学は回答数の85.3%でA群36校(81.8%)に対し、B群28校(90.3%)とB群の方が多い。

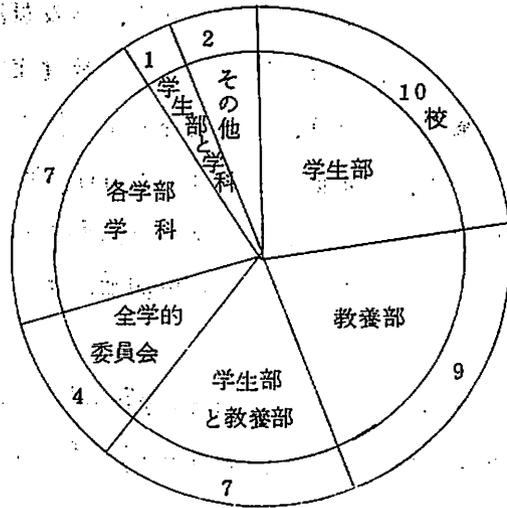
なお、刊行物の内容を見ると学生便覧を筆頭に学園生活についての一般案内が最も多く、これに修学案内が続いている。わずかではあるが健康生活についての手引きもみられる。

(C) 新入生と教官の合宿の場合、その企画、立案、実施はどのようになされていますか。

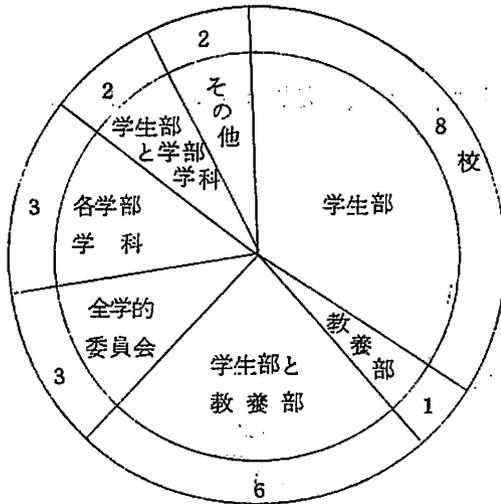
- 1) 学生部が単独に
- 2) 教養部が単独に
- 3) 学生部と教養部が協力して
- 4) 全学的な委員会が中心になって

	回 答	無記入
全体	43校	33校
	回 答	無記入
A群	25校	20校
	回 答	無記入
B群	18校	13校

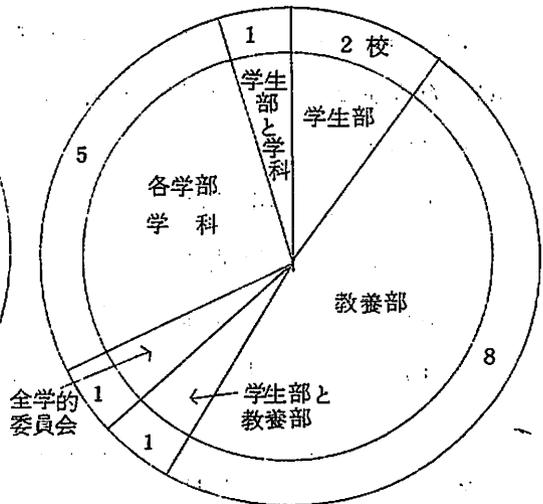
全体



A 群



B 群



オリエンテーションの一環としての新入生の合宿セミナーについては、A群では学生部が中心になって、B群では教養部が中心になって行なわれている。また、B群では各学部・学科単位でも回答校のうちの約3分の1の大学が行なっている。

全学的委員会というのは少ないが、学生部に含めて考えてよからう。

35 教官と学生が参加するゼミ合宿（あるいは旅行）は行なわれていますか。
 またそれには全学生の約何%ぐらいが参加していますか。

〔参加度〕

- 1) 新入生に対し 行なっている いない %
 2) 2年生以上に対し 行なっている いない %

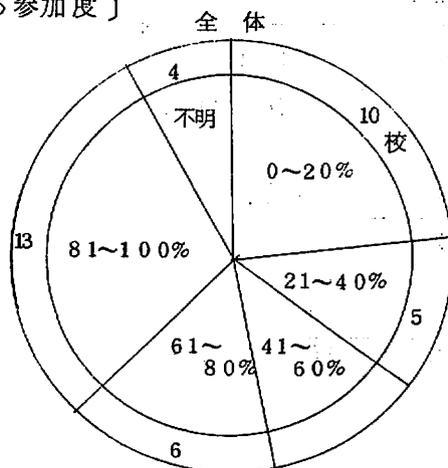
1) 新入生に対し

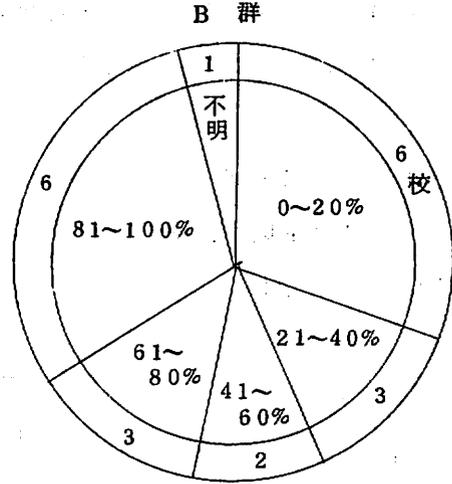
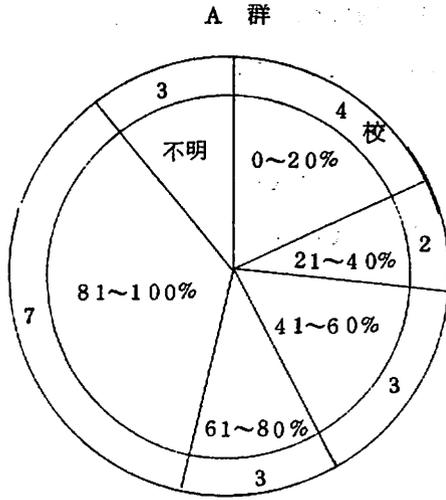
全体	回答		無記入
	43校	19校	14校
	行なっている	行なっていない	

A群	回答		無記入
	13校	10校	10校
	行なっている	行なっていない	

B群	回答		無記入
	21校	6校	4校
	行なっている	行なっていない	

〔実施校における参加度〕





2) 2回生以上に対し

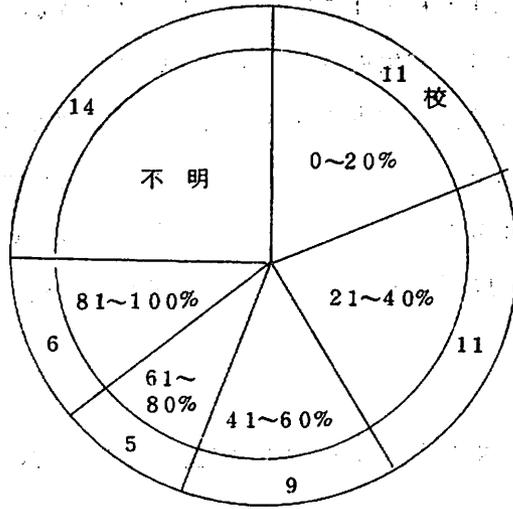
	回答	無記入
全体	66校	10校
	56校 行なっている	

	回答	無記入
A群	37校	8校
	28校 行なっている	

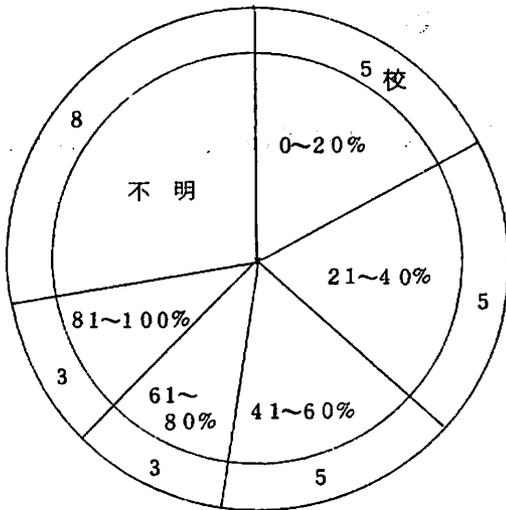
	回答	無記入
B群	29校	2校
	28校 行なっている	

〔実施校における参加度〕

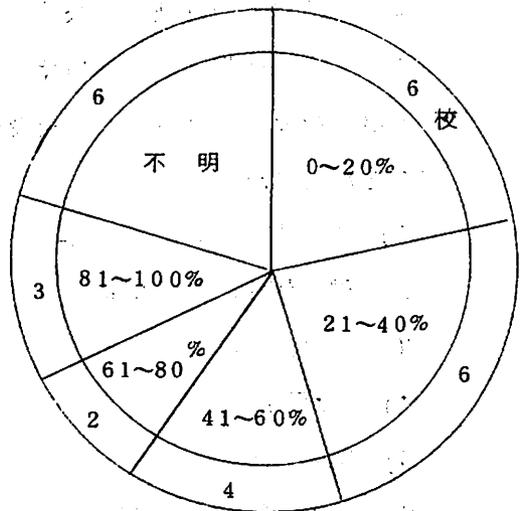
全体



A 群



B 群



1. 実施状況について

新入生に対して行なっていると回答したもの43大学(69.4%)、行なっていないと回答したもの19大学(30.6%)となっている。また、2回生以上に対しては、新入生の場合よりも実施大学が多く、行な

っていると回答した大学は56校(84.8%)に達しており、行なっていない大学は10校(15.2%)にしかすぎない。

2. 実施校における学生の参加状況について

全体としては、全学生の50%以下の参加度をもっとも多い。これを新入生、2回生以上の別にみると、新入生の場合は80~100%の参加度をもっとも多く13校(21.0%)となっているが、2回生以上の場合は50%以下の参加度をもっとも多く31校(47.0%)におよんでいる。

[※]36 教官と学生が参加するセミ合宿には、主としてどのような施設が利用されていますか。

- 1) 大学が管理する合宿施設
- 2) 大学が管理する共同利用研究施設
- 3) 大学以外が管理する公共の宿泊施設
- 4) 民間が経営する宿泊施設

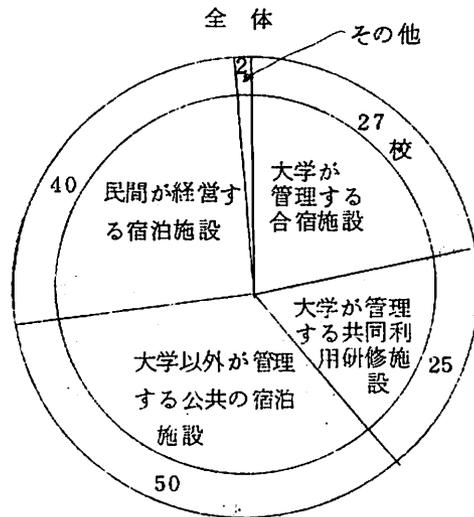
大学の管理する施設以外の施設が利用されている場合、それらの施設は次のどれですか。

- 1) 国立青年の家
- 2) 都道府県立青年の家
- 3) 八王子セミナーハウス
- 4) 共済組合関係施設
- 5) 国民宿舎
- 6) 民間所有の研修施設
- 7) 一般旅館
- 8) その他

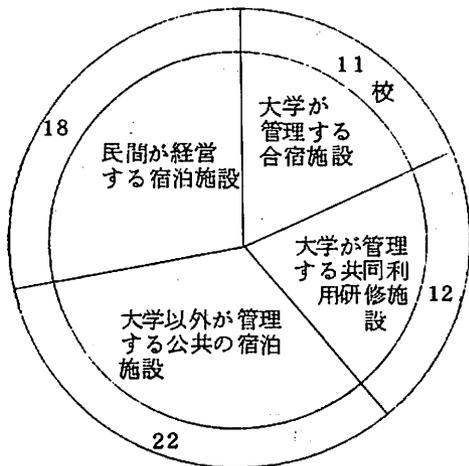
	回 答	無記入
全体	65校	11校

	回 答	無記入
A群	34校	11校

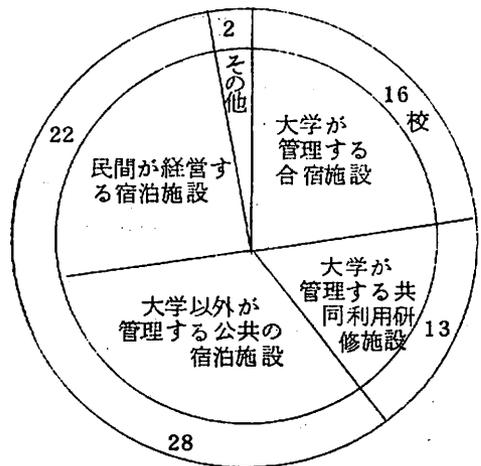
	回 答
B群	31校



A 群



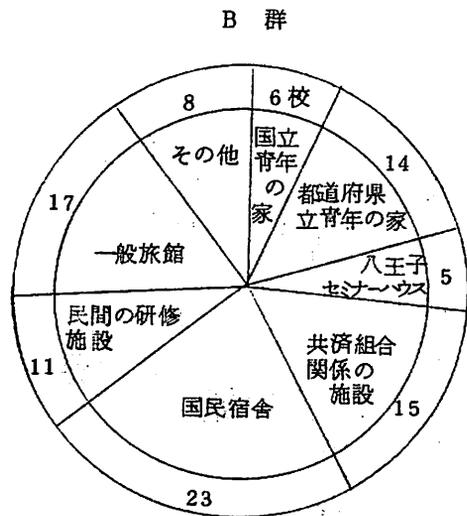
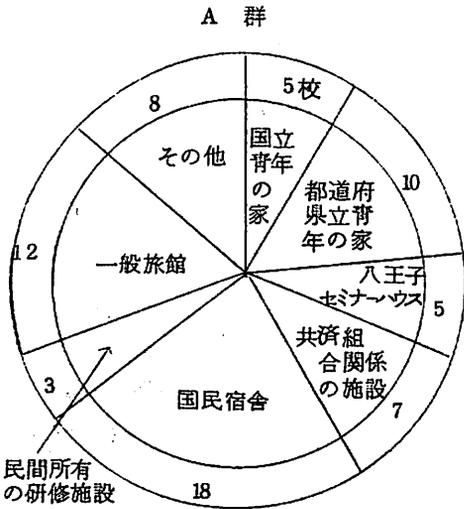
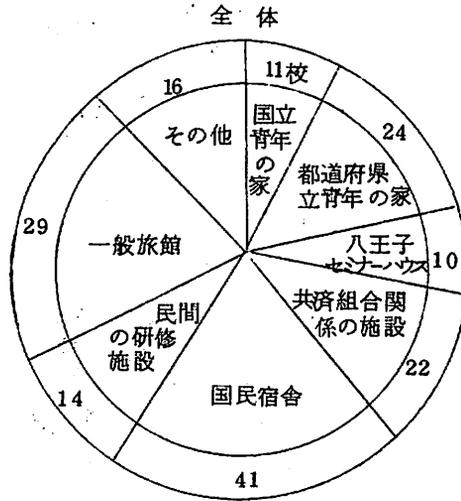
B 群



	回答	無記入
全体	60校	16校

	回答	無記入
A群	30校	15校

	回答	無記入
B群	30校	1



「大学以外が管理する公共の宿泊施設」がもっとも多く、50校(76.9%)に達し、以下「民間が経営する宿泊施設」40校(61.5%)、「大学が管理する合宿施設」27校(41.5%)、「大学が管理する共同利用研究施設」25校(38.5%)の順になっている。この結果によっても、大学以外の施設がかなり利用されていることが明らかである。

また、大学以外の施設としては、国民宿舎、一般旅館、都道府県立青年の家、共済組合関係施設などが多い。

37 今後、教官と学生とのコミュニケーションを発展させていくためには、大学はいかにあるべきかの基本問題について、自由にご意見を記してください。

1) 意見を記した大学の総数は51大学である。このうち学部別、あるいは、分校別の意見を記した大学は10大学であり、その他は大学としての統一意見を記している。学部別、あるいは、分校別の意見を記した大学については、必要に応じて学部の意見を参考にし、大学の意見として取扱う場合には、多数学部の意見をもって大学の意見とした。

2) これらの大学の自由な意見は2種類に大別できる。まず最初に挙げるべきは本アンケート調査に批判的立場をとる意見である。このような意見は多数ではないが、これも2種類に分れる。1つは大学における教官と学生とのコミュニケーションは、教官の本来の任務である研究・教育活動を通じて行なわれるべきもので、特別の方法は必要もないし、特別の方法によるべきでないとする意見である。このような意見はA群中の総合大学で専門課程を担当する学部が多い。しかしこのような意見はかならずしも大規模大学だけにとどまっているわけではない。ついで同じく本アンケート調査に批判的立場をとる別の意見は、教官と学生とのコミュニケーションの充実も「学生対策的立場」、「天下り」、「思想善導的立場」

があれば、かえって逆効果になることをあげている。また一部学生は教官を体制側とし、これと接触することを好まないという事実があるので、教官が学生と積極的に接触することは無意味であるとの立場から、教官と学生とのコミュニケーションの充実に批判的な意見もある。

- 3) 以上の意見に対して、多くの意見は教官と学生とのコミュニケーションの充実の必要を認め、今後これを強化するためにどのような具体策が現在採用されているか、また、将来採用さるべきかを記している。このような意見を記しているのは、単科大学、教育系大学及び総合大学の教養部、教育学部が大部分である。しかしこのような教官と学生のコミュニケーションの充実に積極的な意見も、上記2)に紹介した消極的な意見と全面的に対立し、これを否定する趣旨のものかどうかはかならずしも明らかであるとはいえない。

教官と学生とのコミュニケーションの充実をはかるため、現在これらの大学が採用している具体策の主なものは次のとおりである。

- (a) かなり多数の大学があげているのが、クラス担任教官制・助言教官制であり、これを定期的に開催することにより、教官と学生との接触にかなり効果をあげているとしている。
- (b) 独立の教養課程をもつ大学のすべてが、教官と学生との接触のむづかしさを強調している。しかしその解決のための具体策としてはキャンパス内での研究会・音楽会の開催、ベンチ・ビーチパラソル等の設置、または、500名程度の単位への学生の分割等があげられているにとどまる。そしてこの点の解決は教養部の抜本的改革以外にはないとする意見もある。
- (c) 特殊な例として心修体育の1部として4泊5日の臨海水泳実習が好結果をあげている。

ついで教官と学生とのコミュニケーションの充実に積極的なほとん

どすべての大学が要望しているのは次の諸項目である。

- (a) 研修・セミナーのための施設、学生会館、合宿のための施設等の整備拡充。
- (b) 学生との十分な接触を可能にするための教官の増員。
- (c) 合宿、研修旅行に参加する教官への旅費の支給。
- (d) さらにかならずしも多数の大学の意見ではないが、教官と学生とのコミュニケーションの充実は単なる物的設備の整備拡充で達成し得るものでなく、教官の意識と熱意の高揚、その他教官の精神的側面を強調する意見もすくなくない。
- (e) 将来の特殊な計画事例として海外の研修施設の建設、海外研修旅行があげられている。

4) 以上要約すると、総合大学の教養課程を担当する部局及び比較的学生数のすくない総合大学及び単科大学は教官と学生とのコミュニケーションの充実に熱心であり、そのための物的施設、教官の増員を要望している。これに対してB群に含まれる総合大学の専門課程を担当する学部には、このようなコミュニケーションの充実が教官の研究・教育活動を通じて行なわれるべきであるとする意見が多い。さらにこのようなコミュニケーションの充実をいわゆる学生対策としてとらえる考え方からこれに反対する意見もある。他方この教官と学生とのコミュニケーションそのものが、独立の教養課程をもつ大学の共通の悩みであるが、この点についての十分実効のある解決等はまだみあたらないというのが実情のようである。